



FeliSafe VP

ユーザーズマニュアル



第 1.0 版

Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
FeliSafe®は、株式会社ユタカ電機製作所の登録商標です。

使用上のご注意

■本ソフトウェアについて

- 1.本書および本ソフトウェアは、日本国内において株式会社ユタカ電機製作所が著作権を保有しています。
- 2.本書および本ソフトウェアの内容の一部あるいは全部について複写、複製することは禁じられています。
- 3.本書または製品の内容につきましては、将来予告無しに変更することがあります。
- 4.製品の取り扱いにつきましては、取扱説明書などをよくお読みください。
- 5.製品の内容につきましては万全を期しておりますが、万一不可解な点や、誤り、お気づきのことがありましたら、御一報くださいますようお願いいたします。
- 6.運用の結果の影響については上記事項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

免責事項について

当社製品の使用に起因する事故であっても、装置・接続機器・ソフトウェアの異常、故障に対する損害、その他二次的な被害を含むすべての損害の補償には応じかねます。

目次

1. はじめに.....	1
1.1. FeliSafe VP ご使用にあたって.....	1
2. FeliSafe VP について.....	3
2.1. FeliSafe VP の概要.....	3
2.1.1. UPS 電源状態監視および自動シャットダウン.....	3
2.1.2. 電源異常等の事象の記録と通知.....	3
2.1.3. 電源状態のモニタリング.....	3
2.1.4. スケジュール設定.....	3
2.1.5. リモートシャットダウン.....	3
2.2. FeliSafe VP のプログラム構造.....	3
2.2.1. サービスプログラム.....	3
2.2.2. モニタープログラム.....	3
2.3. FeliSafe VP のリモートシャットダウン機能.....	4
2.4. FeliSafe VP によるシャットダウン処理の概要.....	5
2.4.1. FeliSafe VP のシャットダウン処理の発生条件.....	5
2.4.2. 停電によるシャットダウン.....	5
2.4.3. スケジュール ON/OFF 設定によるシャットダウン.....	7
2.5. 動作環境.....	8
2.5.1. 動作確認OS.....	8
2.5.2. ブラウザ.....	8
2.5.3. 通信インターフェース.....	8
2.5.4. メモリ.....	8
2.5.5. ハードディスク.....	8
2.5.6. 管理者権限.....	8
2.5.7. UPS.....	8
2.5.8. 制限.....	8
2.6. FeliSafe VP のフォルダ構成.....	9
2.7. FeliSafe VP のWEB サイトについて.....	9
3. FeliSafe VP のインストール.....	10
3.1. インストール前の準備.....	10
3.1.1. UPS 本体とコンピュータの接続.....	10
3.1.2. 通信ケーブルの接続.....	10
3.1.3. UPS 本体の起動.....	10
3.1.4. インストール権限.....	10
3.2. インストールプログラムの実行.....	10
3.2.1. ソフトウェアのダウンロード.....	10
3.2.2. 既存バージョンがある場合.....	11
3.2.3. インストールプログラムの起動.....	11
3.2.4. インストールプログラムの実行.....	11
3.3. プログラムの削除（アンインストール）.....	14
4. サービスプログラムの起動/停止/再起動方法.....	15
4.1. Windows の「サービス」から起動/停止/再起動する方法.....	15
4.2. 自動起動（スタートアップの種類）を確認/変更する方法.....	16
5. FeliSafe VP の説明.....	17
5.1. FeliSafe VP の起動、監視、終了.....	17
5.1.1. FeliSafe VP の起動.....	17
5.1.2. FeliSafe VP の監視開始.....	17
5.1.3. FeliSafe VP の監視停止.....	18
5.1.4. FeliSafe VP の終了.....	19
5.2. アクセス設定.....	19
5.2.1. WEB 通信ポート.....	20
5.2.2. リモートPCからのWEB接続許可.....	20
5.2.3. リモートシャットダウン・ポート.....	21

5.3. FeliSafe VP モニター	21
5.3.1. モニター表示	21
5.3.2. Messages	22
5.3.3. FeliSafe VP モニターの機能説明	22
5.3.3.1. UPS MENU	22
5.3.3.2. 初期画面のアイコン	23
5.3.4. ログイン方法	23
5.3.5. パスワード変更	24
5.3.6. 監視されているUPS	24
5.3.7. 電力フロー	25
5.4. UPS メニュー操作	26
5.4.1. UPS 設定	28
5.4.1.1. イベント設定	28
5.4.1.2. UPS とのシリアル通信接続	30
5.4.1.3. パラメータ設定	31
5.4.2. シャットダウン	32
5.4.2.1. シャットダウン設定	32
5.4.2.2. リモートシャットダウン通知設定	37
5.4.2.3. スケジュール ON/OFF 設定	40
5.4.3. 制御	43
5.4.3.1. リモート制御	43
5.4.3.2. スケジュール・バッテリーテスト	46
5.4.4. ログ	48
5.4.4.1. ログ設定	48
5.4.4.2. ログ表示	49
5.4.5. ヘルプ	50
5.4.5.1. マニュアル	50
5.4.5.2. ソフトウェアについて	50
6. コンピュータのシャットダウン動作について	51
6.1. FeliSafe VP によるコンピュータのシャットダウン	51
6.2. FeliSafe VP 以外でのコンピュータのシャットダウン	51
6.3. スケジュール設定時間以外の起動	51
7. ご利用いただく際の注意点—必ずお読みください	52
7.1. UPS の電源供給に連動し、コンピュータを起動させるには	52
7.2. 「スリープモード」のご使用について	52
7.3. 通信が始まらない場合	52
8. 付録	53
8.1. FeliSafe VP を「管理者として実行」する方法	53
8.2. UPS の出力開始でコンピュータを起動する方法	55

1. はじめに

1.1. FeliSafe VP ご使用にあたって

ソフトウェアをご使用になる前に、必ず以下の「ソフトウェア使用許諾条件」をお読みください。
本条件に同意いただけない場合は、本ソフトウェアをご使用になれません。

• ソフトウェアの使用許諾条件

本ソフトウェアをインストールまたは使用する前に、本使用許諾条件（以下「本条件」といいます。）を必ずお読みください。

本ソフトウェアをインストールまたは使用した場合、お客様は本条件の内容に同意したものといたします。
株式会社ユタカ電機製作所（以下「弊社」といいます。）は、本条件に基づき、無償で提供されるソフトウェア（以下「許諾ソフトウェア」といいます。）を、日本国内で使用する非独占的な権利をお客様に許諾します。

1. 許諾ソフトウェアの定義

本条件において「許諾ソフトウェア」とは、弊社が提供するソフトウェア本体に加え、その更新版、修正版、改良版およびこれらに付随するマニュアルその他の関連資料のすべてを含みます。

2. 使用権の許諾

- (1) 弊社は、お客様に対し、許諾ソフトウェアを 1 台のコンピュータにおいて使用する、非独占的かつ譲渡不能の使用権を許諾します。
- (2) 本体の修理、交換または保守に伴う代替機においては、同一用途の範囲内で許諾ソフトウェアを使用することができます。
- (3) お客様は、本条件に定める範囲を超えて許諾ソフトウェアを使用してはなりません。

3. 複製・改変等の制限

- (1) お客様は、バックアップの目的に限り、必要な範囲で許諾ソフトウェアを複製することができます。
- (2) お客様は、許諾ソフトウェアの複製物すべてに、著作権表示その他の権利表示を付すものとします。
- (3) 本条件で明示的に認められている場合を除き、許諾ソフトウェアの複製、改変、結合、第三者への提供その他の処分を行うことはできません。
- (4) お客様は、いかなる場合であっても許諾ソフトウェアとともに提供されたマニュアル等の関連資料を複製することはできません。

4. 権利帰属

許諾ソフトウェアに関する著作権その他の知的財産権は、すべて弊社または正当な権利を有する第三者に帰属し、本条件に基づきお客様に移転することはありません。

5. 譲渡等の禁止

お客様は、許諾ソフトウェアまたはその使用権を、第三者に再使用許諾、譲渡、移転または担保設定することはできません。

6. 逆コンパイル等の禁止

お客様は、許諾ソフトウェアについて、リバースエンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブルを行ってはなりません。

7. 仕様変更

弊社は、許諾ソフトウェアの安全性、信頼性の向上または軽微な機能改善を目的として、お客様への事前通知なく仕様を変更することがあります。

8. 保証および責任の制限

弊社は、許諾ソフトウェアに関していかなる保証も行いません。
許諾ソフトウェアに関し発生する問題はお客様の責任および費用負担をもって処理されるものとします。

9. 使用期間および終了

- (1)お客様は、いつでも許諾ソフトウェアの使用を終了することができます。
- (2)弊社は、お客様が本条件に違反した場合、許諾ソフトウェアの使用権の全部または一部を終了させることができます。
- (3)使用権終了後、お客様は許諾ソフトウェアおよびその複製物を速やかに破棄するものとします。

10. 輸出の制限

お客様はいかなる方法によっても許諾ソフトウェアおよびその複製物を日本国から輸出してはなりません。

11. 準拠法および管轄

本条件は日本法に準拠し、これに関して生じる紛争については、東京地方裁判所を専属的合意管轄裁判所とします。

2. FeliSafe VP について

2.1. FeliSafe VP の概要

FeliSafe VP は、Windows システム上で動作する、ユタカ電機製作所製 UPS 専用の監視ソフトウェアです。本ソフトウェアは、Windows のサービスプログラムとして、接続されている UPS を常時監視します。また、UPS の各種状態を表示および記録する機能を備えており、UPS の状態を動的に把握することができます。停電などにより Windows を終了しなければならない状態になった場合には、FeliSafe VP がシャットダウン処理を実行します。詳細は、<<FeliSafe VP によるシャットダウン処理の概要>>をご参照ください。

2.1.1. UPS 電源状態監視および自動シャットダウン

UPS 監視ソフトウェアは、接続されている UPS を常時監視し、UPS に異常が発生した場合は、指定時間後に OS のシャットダウン処理を実行するとともに、UPS の出力を停止します。また、停電時のイベントに対して特定のファイルを実行するように設定することも可能です。

2.1.2. 電源異常等の事象の記録と通知

停電、電源復旧、シャットダウン開始などの事象を検出し、記録することができます。

2.1.3. 電源状態のモニタリング

電源状態をリアルタイムに表示するため、UPS の状態を動的に把握することができます。

2.1.4. スケジュール設定

指定した時刻に UPS の出力を自動的に ON/OFF する機能です。以下の 3 種類の設定方式が利用できます。

- ・個別：指定日の指定時刻に UPS の出力を ON/OFF します。
- ・毎日：毎日、指定時刻に UPS の出力を ON/OFF します。
- ・週単位：毎週、指定した曜日の指定時刻に UPS の出力を ON/OFF します。

詳細は、<<5.4.2.3.スケジュール ON/OFF 設定>>をご参照ください。

2.1.5. リモートシャットダウン

リモートシャットダウンソフト「FeliSafe SW」を使用することで、「FeliSafe VP」から他のコンピュータをリモートシャットダウンすることができます。

2.2. FeliSafe VP のプログラム構造

FeliSafe VP はサービスプログラムとモニタープログラムで構成されています。

2.2.1. サービスプログラム

Windows が起動すると自動的に開始され、バックグラウンド（画面に表示されない状態）で動作します。UPS と通信を行い、状態の監視や記録を行います。また、停電が発生した場合には、設定に従ってシャットダウン処理を実行します。

2.2.2. モニタープログラム

スタートメニューなどからユーザーが手動で起動するプログラムです。UPS の状態や設定を画面から確認、操作でき、次のような機能があります。

- ・UPS の状態表示（電源状態・イベントなど）
- ・各種設定の変更
- ・バッテリーテストの実行

モニタープログラムを表示していない場合でも、サービスプログラムは停止しません。

そのため、モニタープログラムを表示していなくても、停電時にはサービスプログラムが自動的にシャットダウン処理を行います。

2.3. FeliSafe VP のリモートシャットダウン機能

ここでは、FeliSafe VP のリモートシャットダウン機能の概要を説明します。
設定方法については、<<5.4.2. シャットダウン>>を参照してください。

【注意】

リモートシャットダウン機能は停電発生時の機能となり、スケジュール設定ではご利用になれません。
リモートシャットダウン動作に関係するコンピュータを以下のように定義します。

■プライマリ (FeliSafe VP)

UPS と USB または RS-232C で直接接続され、UPS を監視するコンピュータ。
FeliSafe VP をインストールします。

■セカンダリ (FeliSafe SW)

プライマリ側からのシャットダウン通知を受けてシャットダウンを行うコンピュータ。
FeliSafe SW をインストールします。

■FeliSafe SW について

FeliSafe SW は、リモートシャットダウン時にセカンダリ側で使用するソフトウェアです。
プライマリ側の FeliSafe VP から送信されるシャットダウン通知を受信し、セカンダリのシャットダウン処理を実行します。

【補足】

FeliSafe SW のインストール方法は<<FeliSafe SW のユーザーズマニュアル>>を参照してください。
通知設定 (IP アドレス、パスワードなど) の詳細は<<5.4.2.2. リモートシャットダウン通知設定>>を参照してください。

■リモートシャットダウンの構成概要

停電時のリモートシャットダウンは、セカンダリにインストールした FeliSafe SW が、プライマリの FeliSafe VP から送信されるシャットダウン通知を受信してシャットダウン処理を実行する仕組みです。

FeliSafe VP と FeliSafe SW の関係は、以下の図 2.3 のとおりです。

※イメージ図では電源線を省略しています。

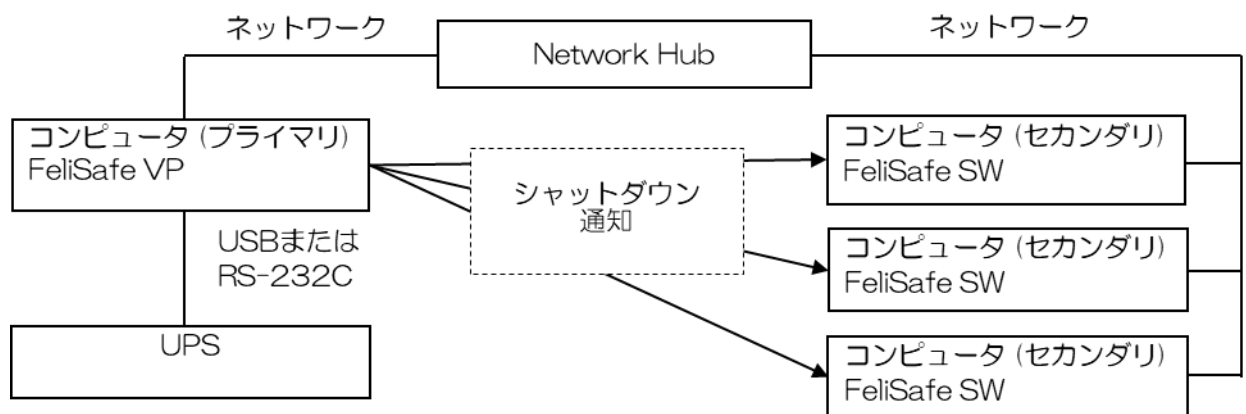


図 2.3. リモートシャットダウンの構成

■リモートシャットダウンの動作

- (1) UPS で停電が発生すると、プライマリの FeliSafe VP がこれを検知します。
- (2) FeliSafe VP に登録されたセカンダリに対して、ネットワーク経由でシャットダウン通知を送信します。
- (3) セカンダリの FeliSafe SW はシャットダウン通知を受信すると、自動的にシャットダウン処理を行います。

■FeliSafe VP / FeliSafe SW の設定

- FeliSafe VP (プライマリ側)
セカンダリ側の IP アドレスを登録します。
通信に使用するパスワードを設定します。
- FeliSafe SW (セカンダリ側)
プライマリ側の IP アドレスを登録します。
FeliSafe VP で入力した同じパスワードを設定します。

これらの設定が一致した場合のみ、FeliSafe SW はシャットダウン処理を行います。

■通知設定

- FeliSafe VP では、「シャットダウン通知をする / しない」を設定可能
- FeliSafe SW では、「シャットダウンを実行する / しない」を設定可能

※ 「FeliSafe VP」から「FeliSafe SW」をリモートでシャットダウンを行う場合、中継する Hub も UPS によりバックアップしてください。

2.4. FeliSafe VP によるシャットダウン処理の概要

FeliSafe VP およびリモートシャットダウンソフト FeliSafe SW を含めたシャットダウン処理の概要を説明します。

本章では、FeliSafe VP をインストールしたコンピュータを「プライマリ」、FeliSafe SW をインストールしたコンピュータを「セカンダリ」と呼びます。(プライマリとセカンダリの詳細は<<2.3. FeliSafe VP のリモートシャットダウン機能>>を参照してください。)

2.4.1. FeliSafe VP のシャットダウン処理の発生条件

FeliSafe VP のシャットダウン処理が発生する条件は、下記の通りです。

- ① 停電によるシャットダウン
- ② スケジュール設定によるシャットダウン

【注意】 スケジュール設定ではリモートシャットダウン (FeliSafe SW) は機能しません。

2.4.2. 停電によるシャットダウン

停電が継続した場合、設定された各ディレイ (ディレイ 1~4) に従ってシャットダウンを実行します。ディレイ 1 が経過するとプライマリ (FeliSafe VP) はセカンダリ (FeliSafe SW) にシャットダウン通知を送信しシャットダウンを開始します。その後、ディレイ 3 が経過すると UPS は出力を停止します。ファイル実行を設定した場合は、ディレイ 1 の待機時間からさかのぼったディレイ 2 の時間でファイルを実行します。

停電時のシャットダウン動作のタイムチャートを、図 2.4 に示します。

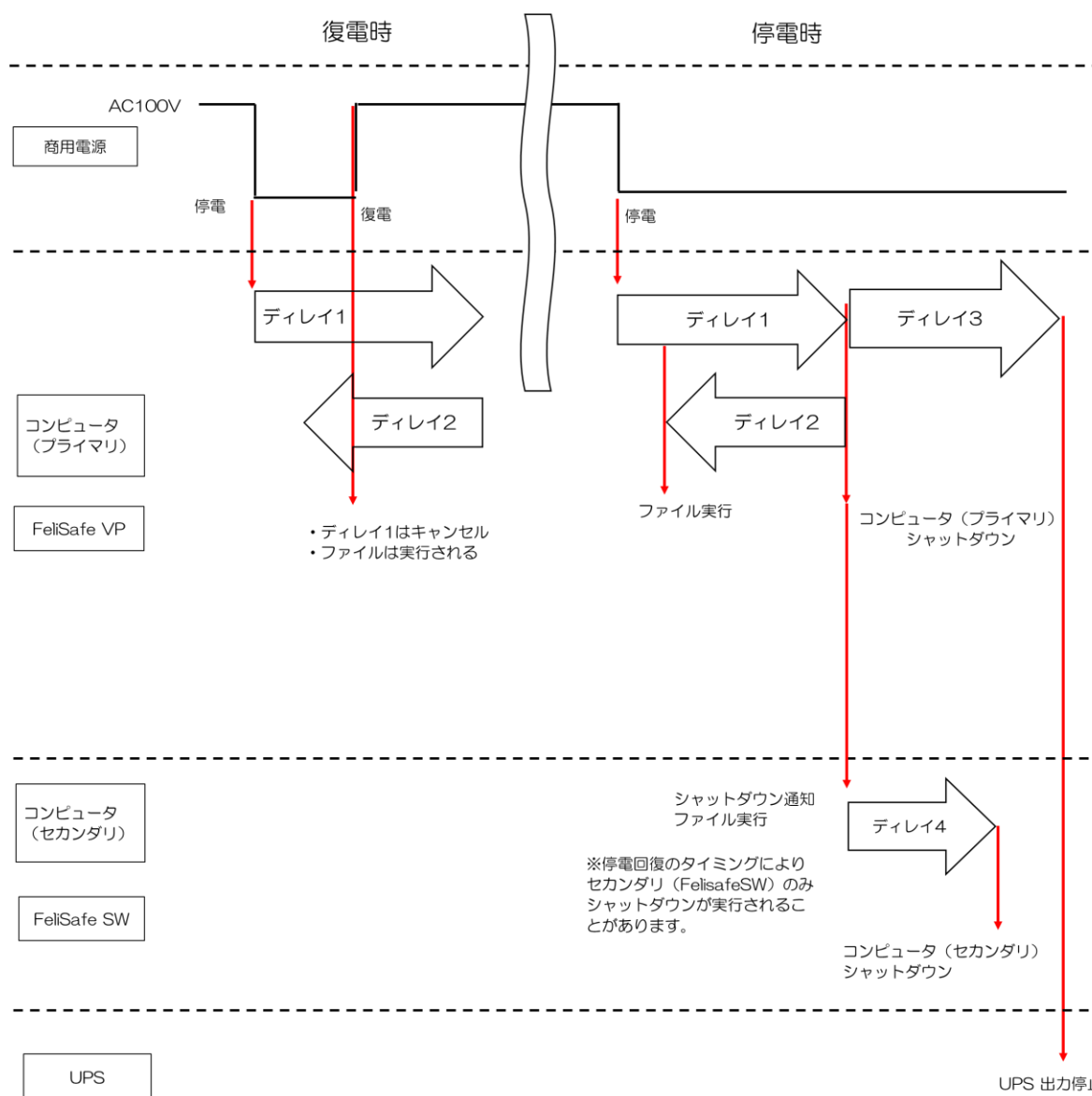


図 2.4. 停電時のシャットダウン動作のタイムチャート

■「図 2.4」のタイムチャートと各ディレイの説明

- ディレイ 1：電源復旧待機時間
停電発生から電源復旧を待機する時間です。
「ディレイ 1」の間に電源復旧した場合、FeliSafe VP はシャットダウン処理を中止し、通常運転に戻ります。
「ディレイ 1」の間に電源復旧しない場合、FeliSafe VP はシャットダウン処理に入ります。
また、リモートシャットダウンが設定されている場合は、セカンダリ（FeliSafe SW）に対してシャットダウン通知を送信します。
- ディレイ 2：OS シャットダウン開始前のファイル実行時間
ファイル実行を設定した場合は、ディレイ 1 の待機時間からさかのぼったディレイ 2 の時間でファイルを実行します。
- ディレイ 3：停電シャットダウン開始後のUPS停止待機時間
ディレイ 1 終了後、UPS が出力を停止するまでの待機時間です。
- ディレイ 4：OS シャットダウン開始前のファイル実行時間（セカンダリ（FeliSafe SW）の設定）
FeliSafe SW が FeliSafe VP よりシャットダウン通知を受信し、
FeliSafe SW がシャットダウンする前に設定されたファイルを実行するための待機時間です。

■詳細説明および設定方法は、《5.4.2.1. シャットダウン設定》を参照してください。

2.4.3. スケジュール ON/OFF 設定によるシャットダウン

2.4.3.1. 概要

スケジュール ON/OFF 設定により、指定した停止時刻に UPS の出力を停止することができます。プライマリは、指定した停止時刻からディレイ 3 で設定した時間を逆算した時刻に、自動的にシャットダウンを開始します。

【注意】

スケジュール ON/OFF 設定によるシャットダウンでは リモートシャットダウンは実行されません。そのため、セカンダリは自動シャットダウンしません。セカンダリ側を停止する場合は、手動でシャットダウンしてください。

2.4.3.2. スケジュール ON/OFF 設定によるシャットダウン時のタイムチャート

スケジュール ON/OFF 設定でシャットダウンを行う場合、UPS とプライマリは、以下のとおり動作します。

①ディレイ 3 で設定した時間

UPS 出力停止時刻からディレイ 3 で設定した時間を逆算した時刻に、プライマリはシャットダウンを開始します。

②スケジュール ON/OFF 設定で指定した停止時刻

指定時刻になると UPS が出力停止します。

スケジュール ON/OFF 設定によるシャットダウン動作のタイムチャートを、図 2.4.3.2 に示します。

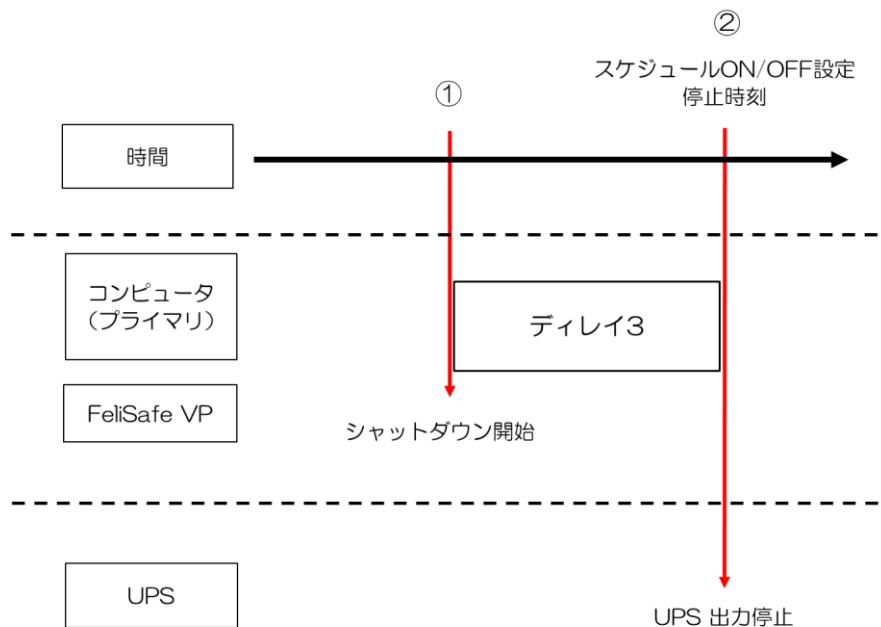


図 2.4.3.2. スケジュール ON/OFF 設定によるシャットダウン動作のタイムチャート

【設定例】

- ディレイ 3 : 2 分
- スケジュール停止時刻 : 17 時 30 分

【動作】

- ① 17 時 28 分 : プライマリのシャットダウン開始
- ② 17 時 30 分 : UPS が出力停止

【注意】

- コンピュータのシャットダウンに十分な時間が確保できるよう、ディレイ 3 には余裕を持った値を設定してください。
- スケジュール設定によるシャットダウン動作は、停電時のシャットダウン動作とは異なります。
- セカンダリはスケジュールによる自動停止を行いませんので、手動で停止してください。

2.5. 動作環境

2.5.1. 動作確認OS

Microsoft Windows 日本語版

- Windows 11
- Windows Server 2016、2019、2022、2025
- Windows Storage Server 2016

【注意】

- 組み込み用 Windows (Windows Embedded 等) はサポートしておりません。OS の Core モードはサポートしておりません。
- Windows の日本語版のみ対応しております。日本語版以外では正常に動作しません。
- 最新の情報は、当社ホームページをご覧ください。URL は予告無く変更することがあります。
https://www.yutakadenki.jp/support/downloadfile/FelisafeVP/Felisafe_VP.html

2.5.2. ブラウザ

Microsoft Edge、Google Chrome、Firefox

2.5.3. 通信インターフェース

以下のいずれかのインターフェースに対応しています。

- USB
- シリアル通信ポート RS-232C (ストレート)

【注意】

USB - RS-232C 変換ケーブルの使用は推奨しておりません。
コンピュータに RS-232C ポートがない場合、RS-232C 増設ボードをご使用ください。
USB-RS-232C 変換ケーブルとそのドライバに関する問題については、弊社では対応いたしかねます。

2.5.4. メモリ

512MB 以上の物理メモリ (1GB を推奨)

2.5.5. ハードディスク

少なくとも 1GB のハードディスク容量

2.5.6. 管理者権限

管理者権限が必要です。

2.5.7. UPS

FeliSafe VP 対応製品

- UPS-LT シリーズ

2.5.8. 制限

1 台のコンピュータに弊社の他の監視ソフトを同時にインストールしないでください。
デバイスなどのリソースの競合により正常に動作しないことがあります。

FeliSafe VP を使用する場合、既にインストールされている「FeliSafe Pro」など、他の監視ソフトをアンインストールした後に、FeliSafe VP をインストールしてください。

2.6. FeliSafe VP のフォルダ構成

FeliSafe VP をインストールするとデフォルトでは次のフォルダにプログラムやデータを保存します。

- プログラムフォルダ

C:¥Program Files (x86) ¥FeliSafeVP

2.7. FeliSafe VP の WEB サイトについて

FeliSafe VP の技術情報等のサポートページは

https://www.yutakadenki.jp/support/downloadfile/FelisafeVP/Felisafe_VP.html

となっております。

最新の情報や新しいバージョン等を掲載しております。

3. FeliSafe VP のインストール

3.1. インストール前の準備

3.1.1. UPS 本体とコンピュータの接続

■コンピュータの接続

- ①コンピュータの電源ケーブルをUPSのコンセントに接続してください。
- ②外付けハードディスク等の周辺機器および、停電発生時に電源のバックアップが必要な周辺装置の電源ケーブルも、UPSのコンセントに接続してください。

【注意】

- UPSの接続の方法は、UPSの取扱説明書に記載されている手順に従って行ってください。
- UPS本体の電源容量の関係から、停電発生時に停止しても差し支えない周辺装置やプリンタ等の電源は、一般のコンセントに接続することをお勧めします。

3.1.2. 通信ケーブルの接続

コンピュータに「FeliSafe VP」をインストールする前に、UPSとコンピュータを通信ケーブルで接続してください。通信は「USB」か「RS-232C」のいずれかでを行います。

3.1.3. UPS 本体の起動

上記「3.1.2」項までの準備ができましたら、UPS本体を起動してください。

■UPS 本体の起動

- ①UPS本体の電源ケーブルをコンセントに接続してください。
- ②UPS本体のON/MUTEボタンを2秒以上押し、出力中のアイコンがLCDに点灯されていることを確認してください。



- ③UPSのコンセント（OUTPUT）に接続した機器が起動する事を確認してください。

3.1.4. インストール権限

インストールを行う際は管理者権限で行ってください。

3.2. インストールプログラムの実行

3.2.1. ソフトウェアのダウンロード

以下のURLよりFeliSafe VPをダウンロードしてください。

https://www.yutakadenki.jp/support/downloadfile/FelisafeVP/Felisafe_VP.html

ソフト名：FeliSafeVP_Ver.XX-XXXXXX.exe

3.2.2. 既存バージョンがある場合

現在使用中の FeliSafe VP がある場合は、古いバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールしてください。
インストール後は、FeliSafe VP の設定を再度行ってください。

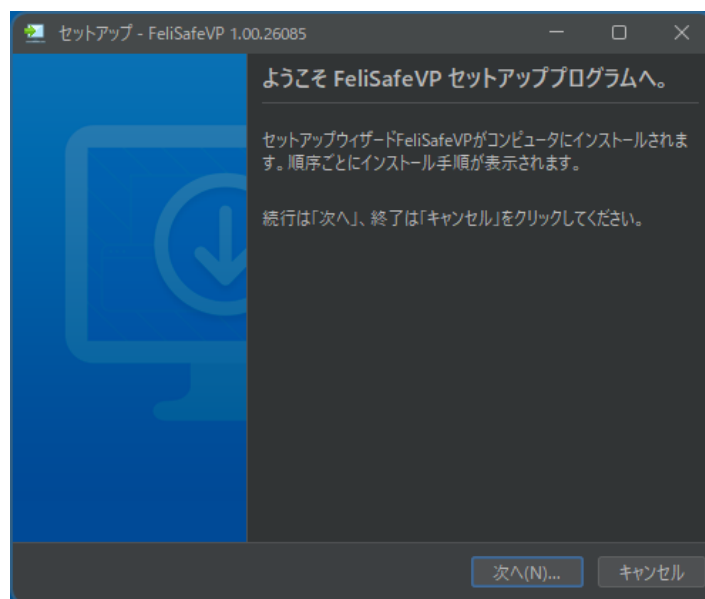
3.2.3. インストールプログラムの起動

ダウンロードした「FeliSafeVP_Ver.X.X-XXXXX.exe」を実行してください。
インストールプログラムの起動時に、Windows のユーザーアカウント制御のメッセージが表示されることがあります。その場合は、「はい」をクリックしてください。



3.2.4. インストールプログラムの実行

- ①インストールプログラムの実行
インストールプログラムを実行するとインストール画面が表示されます。
「次へ」をクリックしてください。

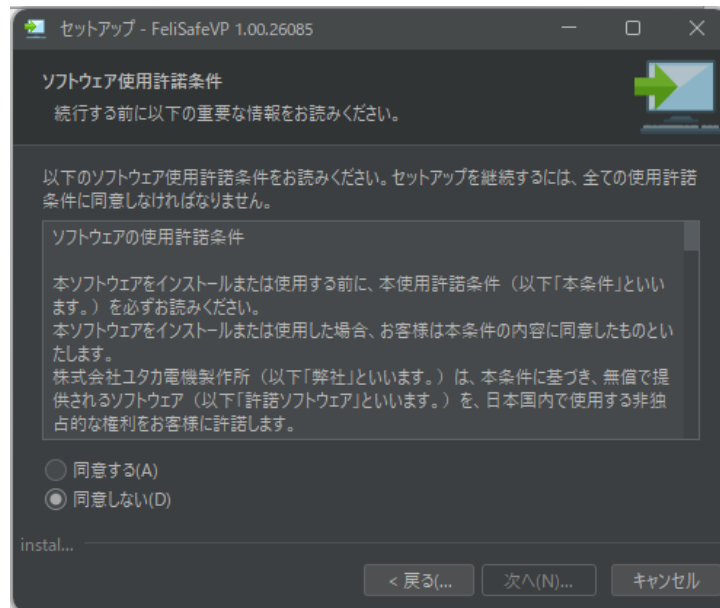


②ソフトウェア使用許諾条件の確認

次に、ソフトウェア使用許諾条件の確認画面が表示されます。

内容をご確認いただき、同意できる場合は「同意する」を選択して、「次へ」をクリックしてインストールを続行してください。

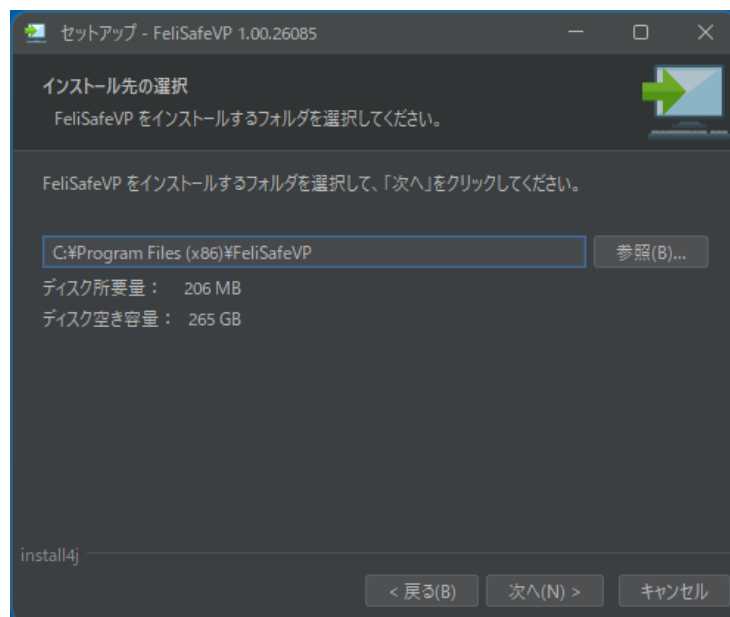
同意できない場合は「キャンセル」をクリックしてインストールを中止してください。



③インストール場所の指定

インストール先フォルダが表示されます。必要に応じてインストール先を変更してください。

「次へ」をクリックしてください。

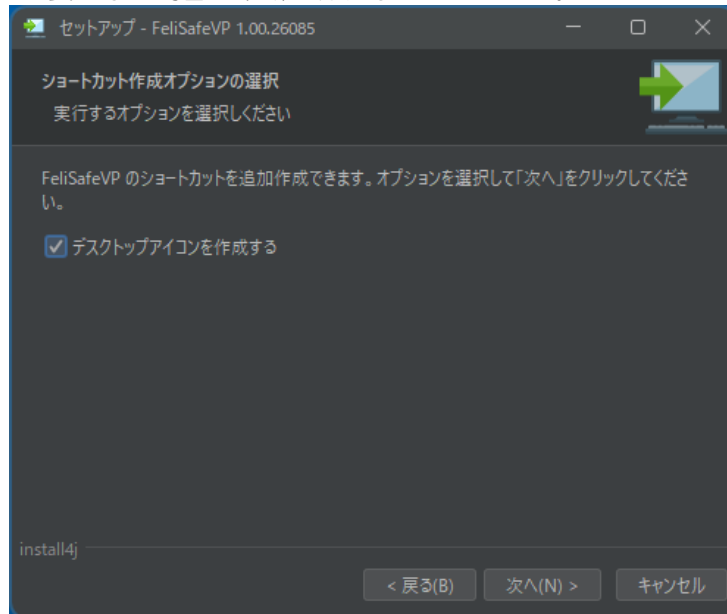


④FeliSafe VP のショートカットの作成

デスクトップにショートカットを作成する場合は、「デスクトップアイコンを作成する」にチェックを入れてください。

「次へ」をクリックするとインストールを開始し、ファイルのコピーが行われます。

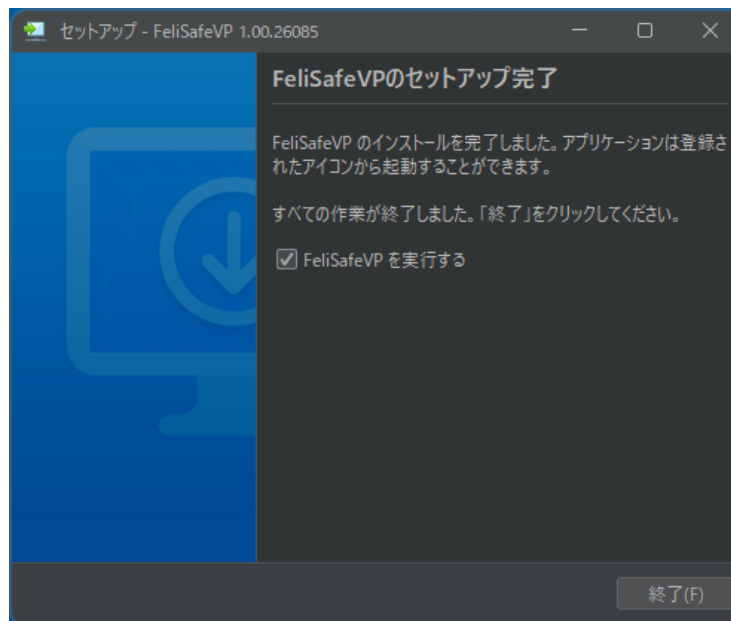
インストール中に「キャンセル」ボタンをクリックすると処理を中断できますが、不要なファイルなどが残る場合があります。特に必要のない場合は中断を行わないでください。



⑤インストールの終了

下記画面が表示されたら、FeliSafe VP のインストールは完了です。

FeliSafe VP を起動したい場合は、チェックボックスにチェックを入れて「終了」をクリックしてください。



3.3. プログラムの削除（アンインストール）

プログラムの削除を行う際は管理者権限で行ってください。

①画面左下の Windows スタートメニューボタンをクリックします。



②スタートメニューが表示されるので「設定」を選択します。



③「設定」→「アプリ」→「インストールされているアプリ」を選択します。



④アプリ一覧から、FeliSafe VP の右端の「・・・」をクリックし、「アンインストール」を選択します。

画面の指示に従ってアンインストールを完了してください。

※アンインストール後、関連ファイルが残る場合があります。

完全に削除したい場合は、残存フォルダを手動で削除してください。



4. サービスプログラムの起動/停止/再起動方法

FeliSafe VP の UPS 監視機能はサービスプログラムとして動作します。
そのため、通常はコンピュータ起動時に自動的に開始され、手動で起動/停止を行う必要はありません。
ただし、以下のような場合はサービスの停止/開始/再起動を行ってください。

- サービスプログラムが正常に起動しない
- 動作が不安定となる
- UPS と通信できない

また、サービスプログラムが停止している場合、FeliSafe VP を「管理者として実行」で起動すると、サービスプログラムが自動的に開始されます。

詳細は<<8.1 FeliSafe VP を「管理者として実行」する方法>>を参照してください。

【注意】

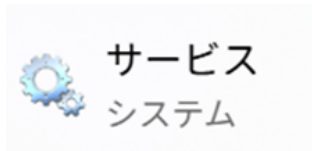
サービスプログラムを停止すると、停電時にシャットダウン処理が実行されなくなります。
手動でサービスプログラムを操作する場合は、以下の手順を管理者権限で実行してください。

4.1. Windows の「サービス」から起動/停止/再起動する方法

①検索ボックスに「サービス」と入力します。



②検索結果から、「サービス」をクリックします。



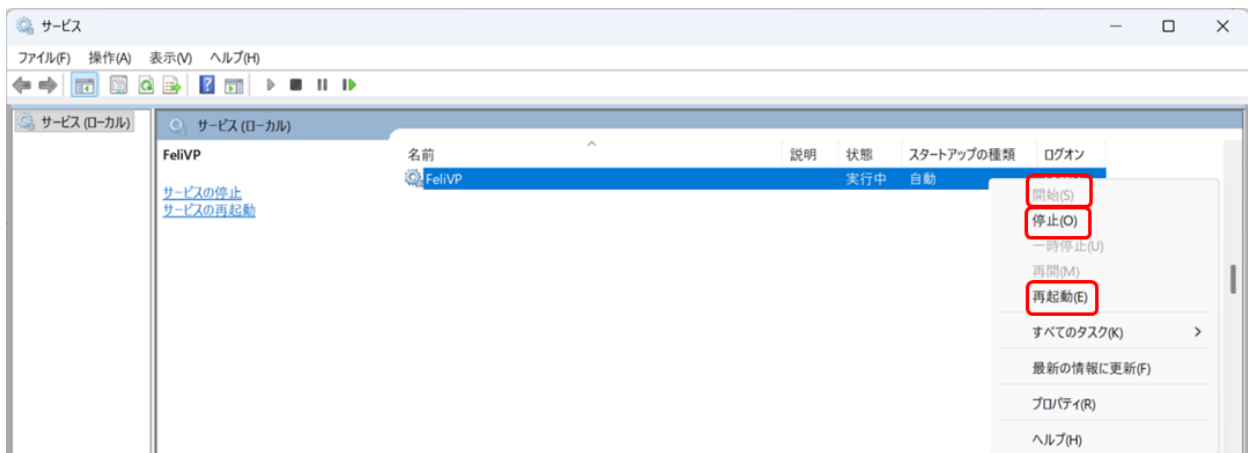
③一覧から「FeliVP」を探します。

「FeliVP」を右クリックし、目的の操作を選択します。

開始：サービスプログラムを起動します（状態が「実行中」になります）

停止：サービスプログラムを停止します

再起動：サービスプログラムを再起動します（動作が不安定な場合に有効です）



4.2. 自動起動（スタートアップの種類）を確認／変更する方法

サービスプログラムが自動的に開始されない場合は、スタートアップの種類が「自動」になっているか確認してください。

- ①対象サービス（例：FeliVP）を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- ②「スタートアップの種類」が「自動」以外の場合は、「自動」に変更します。
- ③サービスプログラムの状態に応じて、必要な操作を行います。
状態が「実行中」の場合：[停止] をクリックして停止できます
状態が「停止」の場合：[開始] をクリックして起動できます
- ④設定変更後、[OK] をクリックします。



5. FeliSafe VP の説明

5.1. FeliSafe VP の起動、監視、終了

本節では、FeliSafe VP の起動方法、UPS 監視の開始／停止、および FeliSafe VP の終了方法を説明します。

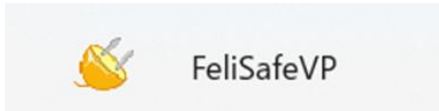
5.1.1. FeliSafe VP の起動

本項では、FeliSafe VP を管理者権限で起動し、タスクトレイに表示させる方法を説明します。

■FeliSafe VP 起動

①UPS とコンピュータに通信ケーブル(USB または RS-232C)で接続してください。

Windows の「スタート」メニューから「FeliSafe VP」を選択し、「管理者として実行」をクリックしてください。



※FeliSafeVP をインストール後、パソコンを再起動した場合は、FeliSafeVP が自動的に起動しタスクトレイに表示されます。

※初回起動時に、「Windows Defender ファイアウォール」の警告画面が表示された場合は、「許可」をクリックしてください。

警告画面の例

「パブリックネットワークとプライベートネットワークにこのアプリへのアクセスを許可しますか？」
アプリ名：felisafevp

②FeliSafe VP が起動すると、タスクトレイに FeliSafe VP のアイコンが表示されます。

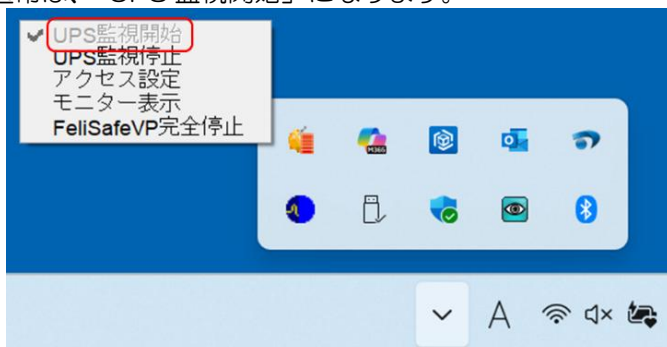


5.1.2. FeliSafe VP の監視開始

本項では、UPS 監視を開始し、UPS とコンピュータの通信状態を確認する方法を説明します。

タスクトレイに FeliSafe VP のアイコンが表示された後、UPS とコンピュータの通信が開始されます。

通常は、「UPS 監視開始」になります。



タスクトレイのFeliSafe VP のアイコンが停止中のままの場合は、「UPS 監視開始」を選択してください。



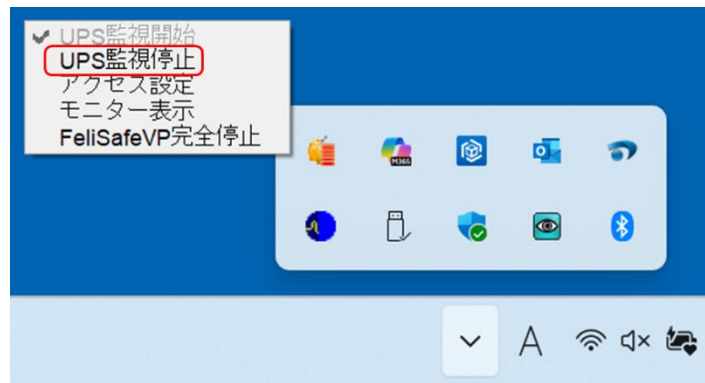
タスクトレイに表示されるアイコンは、以下の通りです。

状態	アイコン	説明
UPS 監視停止		UPS の監視を停止している状態です。
UPS 監視開始		UPS を監視している状態です。 ※表示されるアイコンが異なる場合がありますが、動作上の違いはありません。

5.1.3. FeliSafe VP の監視停止

本項では、UPS 監視を停止する方法を説明します。

タスクトレイのFeliSafe VP のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「UPS 監視停止」を選択すると、UPS の監視を停止します。



監視を停止しても、タスクトレイにはFeliSafe VP のアイコンが表示されたままになります。

UPS の監視を再開する場合は、「UPS 監視開始」を選択してください。



【注意】

UPS 監視停止状態では、UPS 監視プログラム(サービスプログラム)は停止しているため、停電時にシャットダウン処理が実行されません。

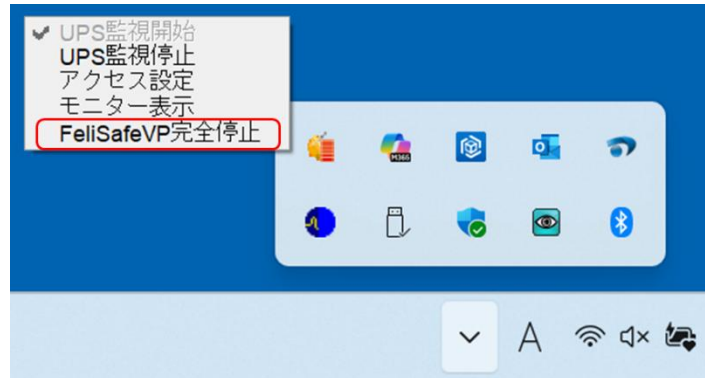
5.1.4. FeliSafe VP の終了

本項では、FeliSafe VP を終了する方法を説明します。

タスクトレイの FeliSafe VP のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「FeliSafe VP 完全停止」を選択すると、FeliSafe VP は終了します。終了すると、タスクトレイから FeliSafe VP のアイコンが表示されなくなります。

【注意】

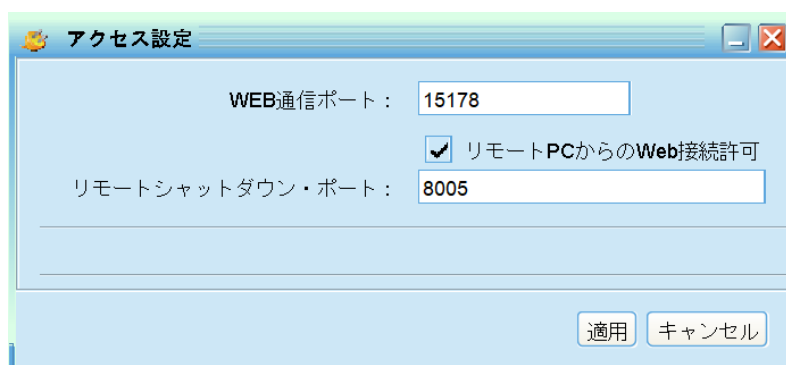
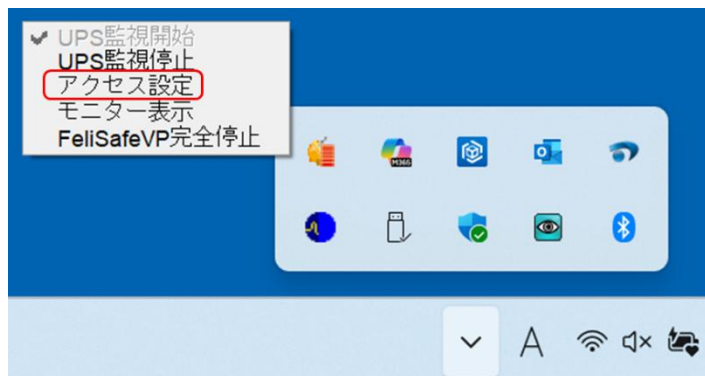
FeliSafe VP を完全停止すると UPS 監視プログラム(サービスプログラム)は停止しているため、停電時にシャットダウン処理が実行されません。



5.2. アクセス設定

本節では、FeliSafe VP モニターにアクセスするための通信設定（WEB 通信ポート、リモート接続許可、リモートシャットダウン・ポート）について説明します。

タスクトレイの FeliSafe VP のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「アクセス設定」を選択すると、アクセス設定画面が表示されます。



※アクセス設定の初回変更時に、「Windows Defender ファイアウォール」の警告画面が表示された場合は、「許可」をクリックしてください。

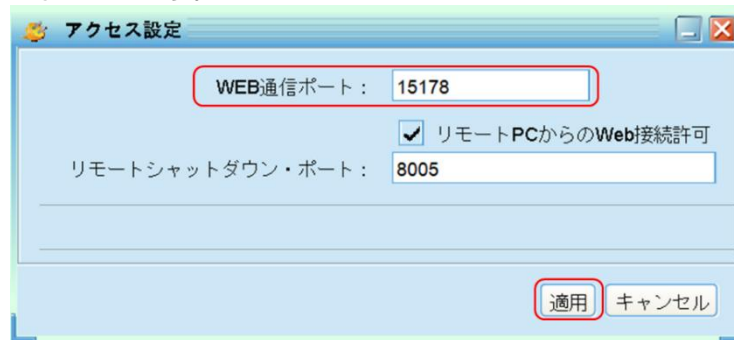
警告画面の例

「パブリックネットワークとプライベートネットワークにこのアプリへのアクセスを許可しますか？」

アプリ名：OpenJDL Platform binary

5.2.1. WEB 通信ポート

本設定では、FeliSafe VP のモニターを表示するための WEB 通信ポートを設定することができます。初期値は、「15178」となっています。



WEB 通信ポートを変更したい場合、任意のポート番号を入力し、「適用」ボタンを押してください。

【注意】

WEB 通信ポートを変更した場合は、設定を確実に反映させるためにコンピュータを再起動してください。

5.2.2. リモート PC からの WEB 接続許可

本設定では、リモートコンピュータからの WEB ブラウザ経由のアクセスを許可/禁止できます。

リモートコンピュータからアクセスさせたくない場合は、「リモート PC からの WEB 接続許可」のチェックを外してください。

初期値は接続許可（チェックあり）です。

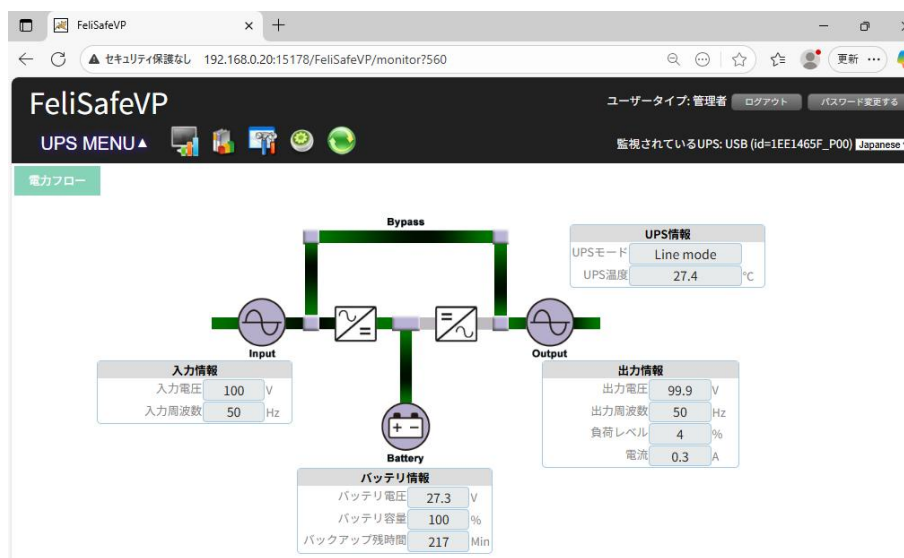


■チェックが入っている場合、リモートコンピュータから WEB ブラウザ経由で、FeliSafe VP がインストールされているコンピュータにアクセスし、FeliSafe VP を操作できます。

アクセス方法は以下のとおりです。

http://FeliSafe VP がインストールされているコンピュータの IP アドレス：通信ポート/FeliSafeVP

例：<http://192.168.0.20:15178/FeliSafeVP>



■チェックを外した場合、リモート PC から WEB ブラウザ経由でアクセスできません。

5.2.3. リモートシャットダウン・ポート

このポートは使用しないため、変更しないでください。

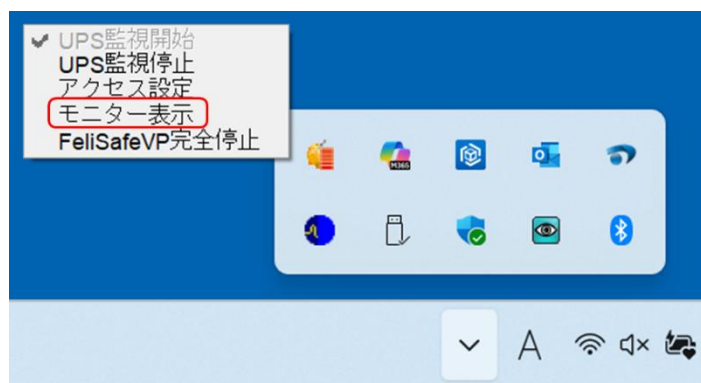
5.3. FeliSafe VP モニター

本節では、FeliSafe VP モニターの表示方法と、画面上で確認/操作できる主な機能を説明します。

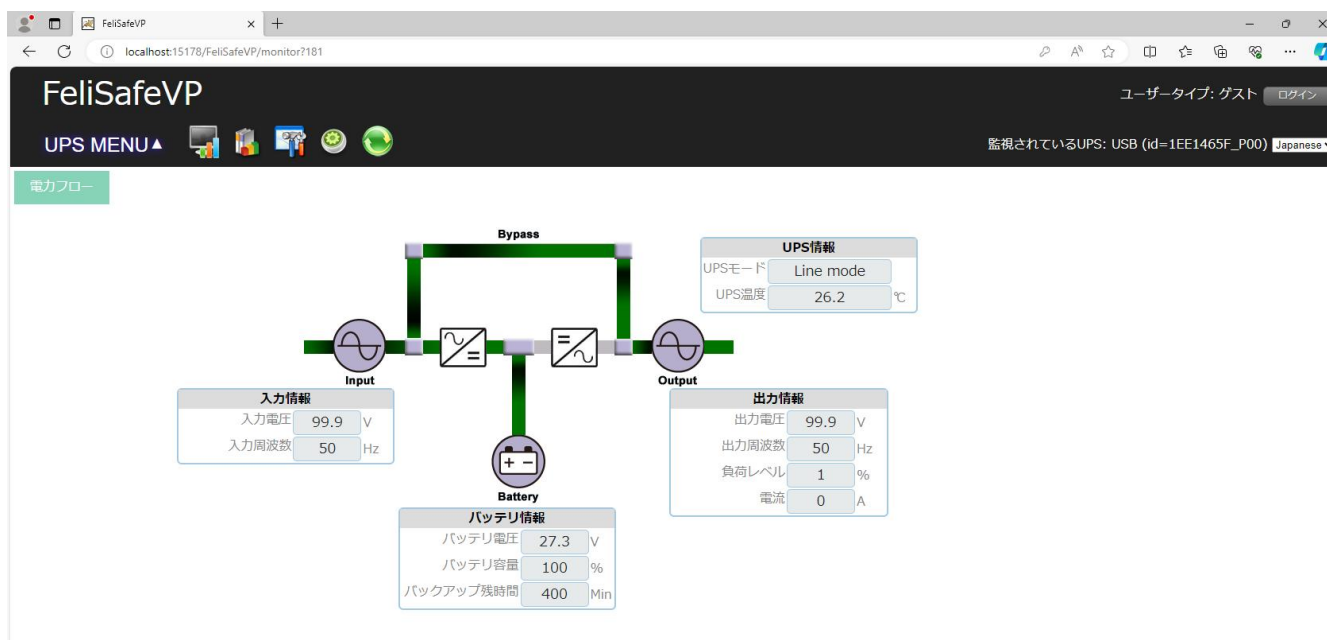
5.3.1. モニター表示

本項では、FeliSafe VP モニターを起動して表示する方法を説明します。
FeliSafe VP モニターを表示するには、次のいずれかの方法を行ってください。

- タスクトレイ内のFeliSafe VP アイコンをダブルクリックします。
- FeliSafe VP アイコンを右クリックし、表示されるメニューの中から、「モニター表示」を選択します。

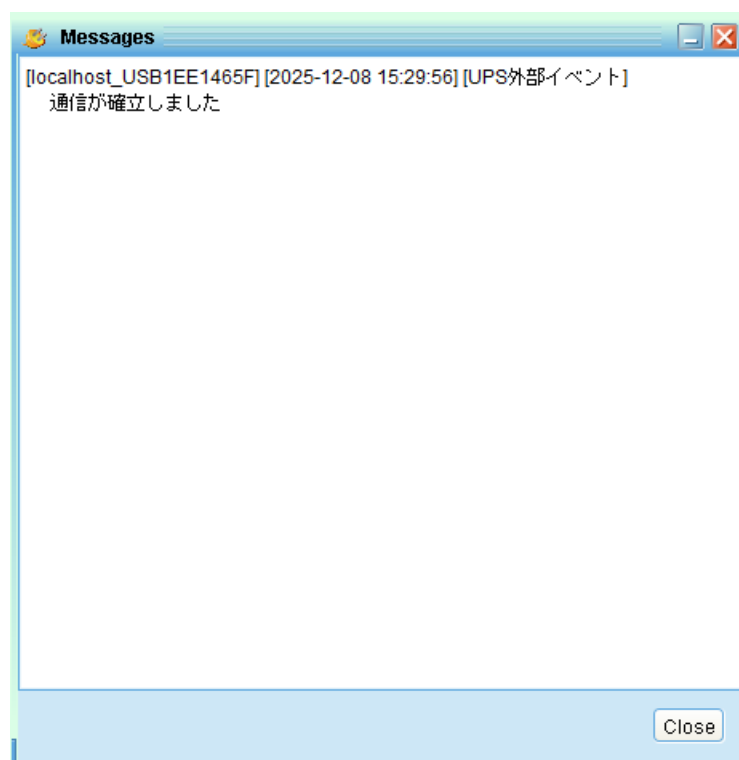


「モニター表示」を選択すると、ブラウザが起動し、FeliSafe VP モニターが表示されます。
FeliSafe VP モニターでは、UPS の状態確認、パラメータ設定、シャットダウン設定、リモート制御などの操作を行うことができます。



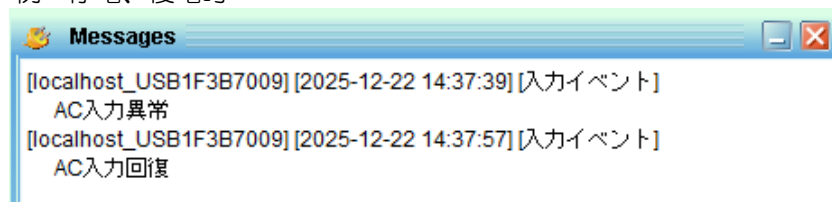
5.3.2. Messages

FeliSafe VP と UPS の通信が確立すると、「Messages」ウィンドウがポップアップ表示されます。



「Messages」には、発生したイベントが表示されます。
イベントについての詳細は、<<5.4.1.1. イベント設定>>を参照してください。

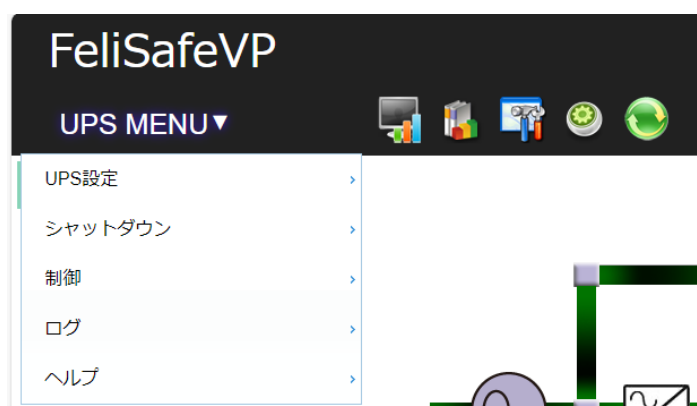
例：停電、復電時



5.3.3. FeliSafe VP モニターの機能説明






5.3.3.1. UPS MENU

本項では、UPS MENU のドロップダウンメニューについて説明します。
「UPS MENU」にマウスのカーソルを合わせると、ドロップダウンメニューが表示されます。
詳細は、<<5.4. UPS メニュー操作>>を参照してください。



5.3.3.2. 初期画面のアイコン

本項では、初期画面に表示されるアイコンの機能を説明します。
FeliSafe VP モニターの初期画面に表示されるアイコンは以下のとおりです。

アイコン	アイコンの名称	機能
	UPS 状態	UPS の電力フローを確認できます。
	ログ	イベントログ画面に移動します。
	パラメータ設定	パラメータ設定画面に移動します。
	制御	リモート制御画面に移動します。
	リフレッシュ	画面更新し、初期画面（電力フロー）に戻ります。

5.3.4. ログイン方法

本項では、FeliSafe VP モニターにログインする方法と、ログイン可否による操作範囲の違いを説明します。
FeliSafe VP モニターを操作する前にログインしてください。
初期設定のパスワードは「administrator」です。
ログインしない場合、UPS の状態確認はできますが、パラメータ設定、シャットダウン設定、リモート制御などの操作はできません。



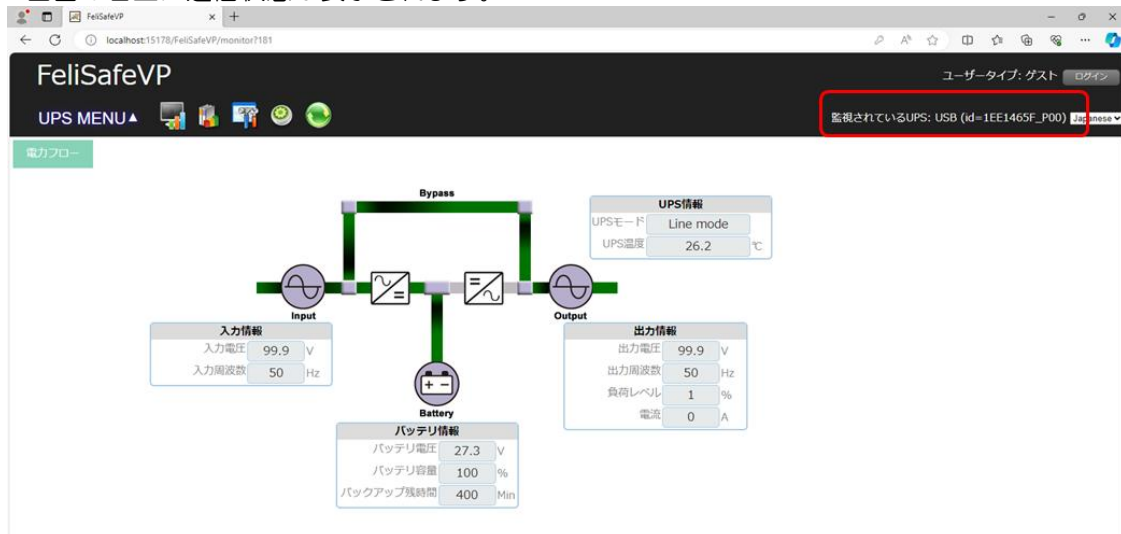
5.3.5. パスワード変更

本項では、FeliSafe VP モニターのログインパスワードを変更する方法を説明します。
パスワード変更するときは、FeliSafe VP モニターにログインした状態で、「パスワード変更」をクリックします。
新しいパスワードを2回入力してください。パスワードは6文字以上にしてください。
パスワード変更後は、再度ログインしてください。



5.3.6. 監視されているUPS

本項では、FeliSafe VP とUPS の通信状態 (USB/RS-232C/未接続) を確認する方法を説明します。
電力フロー画面の右上に通信状態が表示されます。



■FeliSafe VP とUPS が通信できているとき
「監視されているUPS」の右側に、通信方法が表示されます。

- USB の場合

監視されているUPS: USB (id=1EE1465F_P00)

- RS-232C の場合

監視されているUPS: COM3_P00

■FeliSafe VP とUPS が通信できていないとき
「監視されているUPS」の右側に、「---」と表示されます。

監視されているUPS: ---

5.3.7. 電力フロー

本項では、電力フロー画面で確認できる情報を説明します。

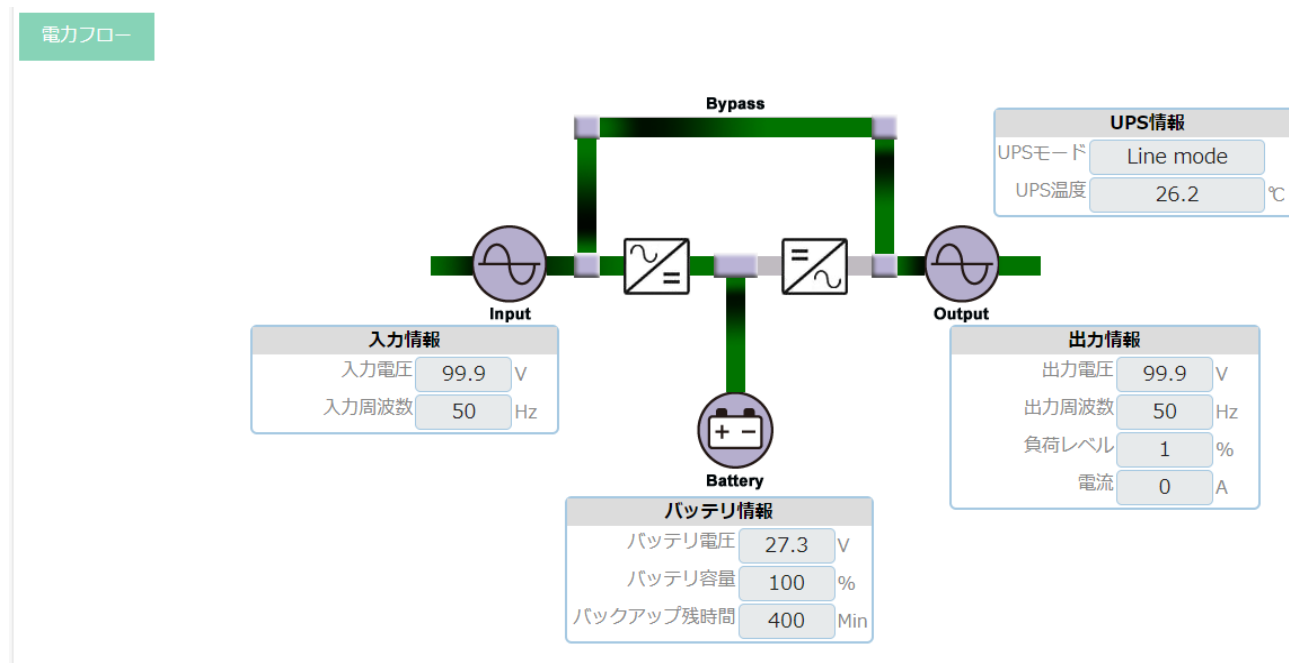
電力フローでは、以下の情報を確認できます。

- 入力情報 : 入力電圧、入力周波数
- バッテリー情報 : バッテリー電圧、バッテリー容量、バックアップ残時間
- 出力情報 : 出力電圧、出力周波数、負荷レベル、電流
- UPS 情報 : UPS モード、UPS 温度

■UPS モード一覧

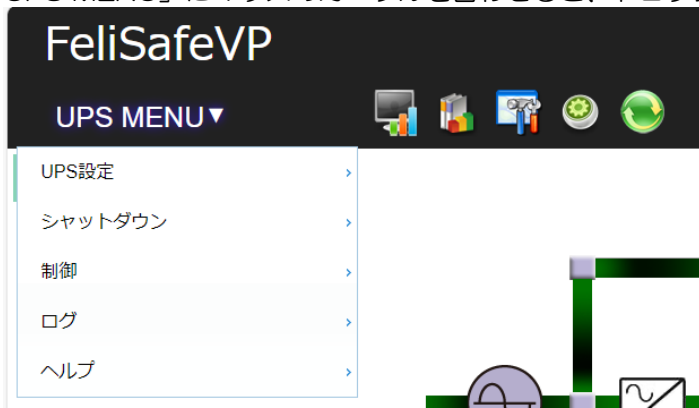
電力フロー画面に表示される UPS モードの意味を以下に示します。

FeliSafe VP モニターでの表示	運転モード (LT シリーズ)	詳細
Standby mode	待機	• UPS 待機中に表示されます
Line mode	AC 入力運転 (Normal mode)	• AC 入力運転 (Normal mode) 時に表示されます • 入力電圧: AC89V~110V の供給あり
AVR mode	AC 入力運転 (Buck mode, Boost mode)	• AC 入力運転 (Buck mode、Boost mode) 時に表示されます • 入力電圧上昇/低下時、トランスのタップを切り替えて AC100V に近づけるよう出力します • 入力電圧 Buck mode : AC107V~117V の供給あり Boost mode : AC78V~92V の供給あり
Battery mode	バッテリー運転	• バッテリー運転時に表示されます • 交流入力 that 起動電圧範囲外の入力電圧 (停電含む)
Fault mode	故障	• 故障が発生した時に表示されます
Battery test mode	バッテリーテスト	• バッテリーテスト中に表示されます



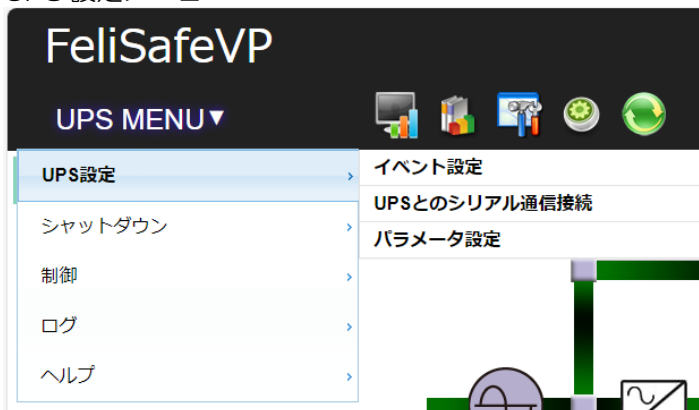
5.4. UPS メニュー操作

「UPS MENU」にマウスのカーソルを合わせると、ドロップダウンメニューが表示されます。



ドロップダウンメニューの各項目にマウスのカーソルを合わせると、スライドアウトメニューが表示されます。

■ UPS 設定メニュー



イベント設定：イベント発生時のログ、ポップアップ表示（Messages）の設定を行います。
UPSとのシリアル通信接続：RS-232CでUPSと接続する場合に設定します。
パラメータ設定：UPSのパラメータを設定します。

■ シャットダウンメニュー



シャットダウン設定：FeliSafe VPによるシャットダウン処理の設定を行います。
リモートシャットダウン通知設定：コンピュータ（セカンダリ）をシャットダウンさせるための設定を行います。
スケジュール ON/OFF 設定：スケジュールによるUPS出力の起動と停止を設定します。

■制御メニュー



リモート制御：ブザー音、バッテリーテストの操作ができます。

スケジュール・バッテリーテスト：スケジュールによるバッテリーテストの設定を行います。

■ログメニュー



ログ設定：ログ保存に関する設定ができます。

ログ表示：ログを確認できます。

■ヘルプメニュー



マニュアル：FeliSafe VP のユーザーズマニュアルをダウンロードできます。

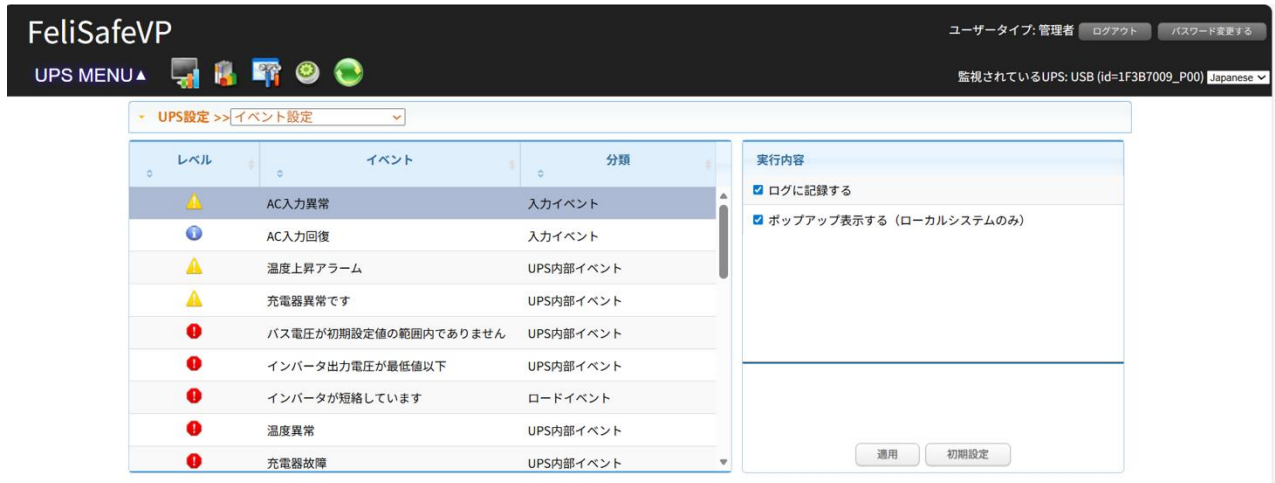
ソフトウェアについて：FeliSafe VP のバージョン情報を確認できます。

5.4.1. UPS 設定

5.4.1.1. イベント設定

イベント発生時のログ記録およびポップアップ表示 (Messages) の設定を行います。
イベント設定は、以下の操作で表示できます。

「UPS MENU」 → 「UPS 設定」 → 「イベント設定」



■ ログの記録とポップアップ表示

イベント発生後、下記の処理が実行されます。

- 「ログに記録する」
イベント発生後、ログにイベントを記録します。(初期値：有効)
- 「ポップアップ表示する」
イベント発生後、ポップアップにてメッセージを表示します。(初期値：有効)

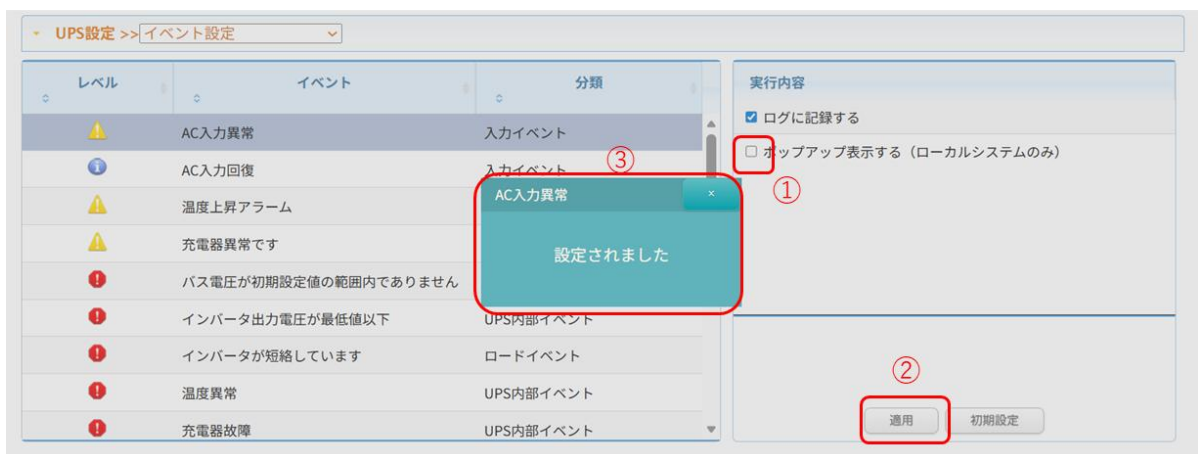
■ ログの記録とポップアップ表示の設定変更

イベント毎に、「ログに記録する」、「ポップアップ表示する」の有効/無効を設定できます。
各イベントは同様の手順で設定を変更できます。

【設定例】 イベント「AC 入力異常」について、「ログに記録する」は有効、「ポップアップ表示する」は無効にしたい場合

- ① 「ポップアップ表示する」のチェックを外します。
- ② 「適用」ボタンをクリックします。
- ③ 「設定されました」と表示されます。

なお、「初期設定」ボタンをクリックすると、「ログに記録する」「ポップアップ表示する」のチェックが外れます。



■イベント一覧

イベントとは、UPS で発生する各種の事象を指します。

表 5.4.1.1 に通常動作時のイベント一覧を示します。

表 5.4.1.2 に Warning 時のイベント一覧を示します。

表 5.4.1.3 に Fault 時のイベント一覧を示します。

【補足】

FeliSafe VP のイベント一覧に記載されている項目は、LT シリーズの取扱説明書にある「Warning」や「Fault」時のエラーコード一覧と、表現が異なる場合があります。

表 5.4.1.1.通常動作時のイベント一覧

項目	運転状態	説明
AC 入力回復	出力中	入力電圧が起動電圧範囲内となったときログに記録されます。(復電含む) AC 入力運転に移行します。
バッテリーセルフテスト不合格	出力中	バッテリーテストが不合格となったときログに記録されます。
バッテリーセルフテスト合格	出力中	バッテリーテストが合格したときログに記録されます。
バッテリーセルフテストがスタートします	出力中	バッテリーテストが開始されたときログに記録されます。
バッテリーセルフテストがキャンセルされました	出力中	バッテリーテスト中にキャンセルされたときログに記録されます。
通信不能	待機中、出力中	FeliSafe VP と UPS の通信ができなくなったときログに記録されます。
通信が確立しました	待機中、出力中	FeliSafe VP と UPS の通信が確立したときログに記録されます。
スケジュール(日単位)での電源オフが実行されます	出力中	スケジュール(日単位)での UPS の出力停止が実行される時ログに記録されます。
スケジュール(週単位)での電源オフが実行されます	出力中	スケジュール(週単位)での UPS の出力停止が実行される時ログに記録されます。
シャットダウン開始	出力中	FeliSafe VP をインストールされたパソコンがシャットダウンするときログに記録されます。
スリープモード開始	出力中	FeliSafe VP をインストールされたパソコンがスリープモードになるときログに記録されます。

表 5.4.1.2.Warning 時のイベント一覧

項目	運転状態	説明
AC 入力異常	出力中	入力電圧が起動電圧範囲外となったときログに記録されます。(停電含む) バッテリー運転に移行します。
温度上昇アラーム	待機中	待機中に内部温度が規定値を超えたときログに記録されます。
充電器異常です	待機中、出力中	充電回路が故障したときログに記録されます。
バッテリー交換の警告	出力中	バッテリーが劣化し寿命になったときログに記録されます。
バッテリー低電圧	出力中	バッテリー運転中、バッテリー電圧が低下したときログに記録されます。
バッテリー切断状態	待機中、出力中	バッテリーの接続が確認できないときログに記載されます。
バッテリーが過充電になっています	待機中、出力中	バッテリー電圧が規定値以上となったときログに記録されます。
過負荷アラーム	出力中	UPS に接続している負荷が出力容量を超えて規定値に以上になったときログに記録されます。

表 5.4.1.3.Fault 時のイベント一覧

項目	運転状態	説明
温度異常	出力停止	出力中に、内部温度が規定値を超えたときログに記録されます。 UPS は出力を停止します。
充電器故障	出力停止	充電回路が故障しバッテリー電圧が規定値以下となったときログに記録されます。 UPS は出力を停止します。
バス電圧が初期設定値の範囲内ではありません	出力停止	インバータの出力電圧が初期設定値の範囲外となったときログに記録されます。 UPS は出力を停止します。
インバータ出力電圧が最低値以下	出力停止	インバータの出力電圧が規定値以下となったときログに記録されます。 UPS は出力を停止します。
インバータ出力電圧が最大値を超えています。	出力停止	インバータの出力電圧が規定値以上となったときログに記録されます。 UPS は出力を停止します。
インバータが短絡しています	出力停止	インバータ回路が短絡したとき、また、出力回路が短絡したときログに記録されます。 UPS は出力を停止します。
バッテリー電圧が高すぎる	出力停止	バッテリー電圧が規定値以上となったときログに記録されます。 UPS は出力を停止します。
バッテリー過放電	出力停止	バッテリー電圧が規定値以下となったときログに記録されます。 UPS は出力を停止します。
過負荷	出力停止	UPS に接続している負荷が出力容量を超えて規定値に以上になり一定時間継続したときログに記録されます。 UPS は出力を停止します。

5.4.1.2. UPS とのシリアル通信接続

FeliSafe VP がインストールされているコンピュータと UPS を RS-232C で接続する場合に設定します。以下の操作で表示できます。

「UPS MENU」 → 「UPS 設定」 → 「UPS とのシリアル通信接続」

■COM ポート番号の確認

RS-232C で接続すると、コンピュータが認識しているポート番号を確認することができます。表示されない場合は RS-232C コネクタを確認し、「リフレッシュ」ボタンをクリックしてください。



■接続/切断の設定

設定値が「切断」の場合、「接続」を設定すると通信を開始します。



5.4.1.3. パラメータ設定

UPSのパラメータを設定することができます。

以下の操作で表示できます。

- ・「UPS MENU」→「UPS 設定」→「パラメータ設定」
- ・パラメータ設定のアイコンをクリック



UPS設定 >> パラメータ設定

UPSブザー音(全状態(優先)) バッテリからの起動

UPSブザー音(バッテリー運転時のみ)

停電回復時の自動起動

■パラメータ設定の項目を表 5.4.1.3 に示します。

表 5.4.1.3.パラメータ設定項目

項目	初期設定値	説明
UPS ブザー音 (全状態 (優先))	有効	UPS の全状態のブザー音を「有効」、「無効」に設定できます。 (UPS 起動時、停止時のブザー音は除く)
UPS ブザー音 (バッテリー運転時のみ)	有効	バッテリー運転時のブザー音のみ、「有効」、「無効」に設定できます。
停電回復時の自動起動	有効	復電すると、自動的に UPS が起動します。
バッテリーからの起動	無効	商用電源が無い状態でも UPS がバッテリーで起動することができます。

■パラメータの設定変更

パラメータの設定は、「有効」、「無効」ボタンで変更できます。

設定を変更した際は、「正しく設定されました」のポップアップ表示を確認してください。

「正しく設定されました」のポップアップ表示がされないと、設定は反映されません。

【設定例】

UPS ブザー音 (全状態 (優先)) を無効にする場合

- ①UPS ブザー音 (全状態 (優先)) の「無効」ボタンをクリックします。
- ②「正しく設定されました」のポップアップが表示されます。

UPS設定 >> パラメータ設定

UPSブザー音(全状態(優先)) バッテリからの起動

UPSブザー音(バッテリー運転時のみ)

停電回復時の自動起動

②

UPSブザー音(全状態(優先))

無効 正しく設定されました

【初期設定】

UPS が待機状態のときのみ「初期設定」ボタンを使用できます。

「初期設定」ボタンをクリックすると、すべてのパラメータが初期設定値に戻ります。

UPS設定 >> パラメータ設定

UPSブザー音(全状態(優先)) バッテリからの起動

UPSブザー音(バッテリー運転時のみ)

停電回復時の自動起動

5.4.2. シャットダウン

ここでは、FeliSafe VP をインストールしたコンピュータを「プライマリ」、FeliSafe SW をインストールしたコンピュータを「セカンダリ」と呼びます。（詳細は<<2.3. FeliSafe VP のリモートシャットダウン機能>>参照）

FeliSafe VP を用いたシャットダウン設定を説明します。

シャットダウン対象のコンピュータにより、必要な設定内容は以下のとおりになります。

シャットダウン対象のコンピュータ	5.4.2.1 項のシャットダウン設定	5.4.2.2 項のリモートシャットダウン通知設定	FeliSafe SW の設定 (5.4.2.1 項に記載例)
プライマリのみ	設定必要	設定不要	設定不要
プライマリおよびセカンダリ	設定必要	設定必要	設定必要

5.4.2.1. シャットダウン設定

FeliSafe VP のシャットダウン動作における各ディレイ時間の設定、およびコンピュータのシャットダウン指示、UPS の停止指示の設定を行います。

シャットダウン処理の用語や動作の詳細については、<<2.4. FeliSafe VP によるシャットダウン処理の概要>>を参照してください。

シャットダウン設定は、以下の操作で表示できます。

- 「UPS MENU」 → 「シャットダウン」 → 「シャットダウン設定」

シャットダウン >> シャットダウン設定

UPSがバッテリー給電動作のとき

電源復旧待機時間 (ディレイ1): 60 秒

OSシャットダウン開始前のファイル実行時間 (ディレイ2): 60 秒

シャットダウン時の実行ファイル 例えば: C:\WINDOWS\notepad.exe

OSシャットダウンの方法

シャットダウン スリープモードに移す

停電シャットダウン開始後のUPS停止待機時間 (ディレイ3): 2 分

適用 初期設定

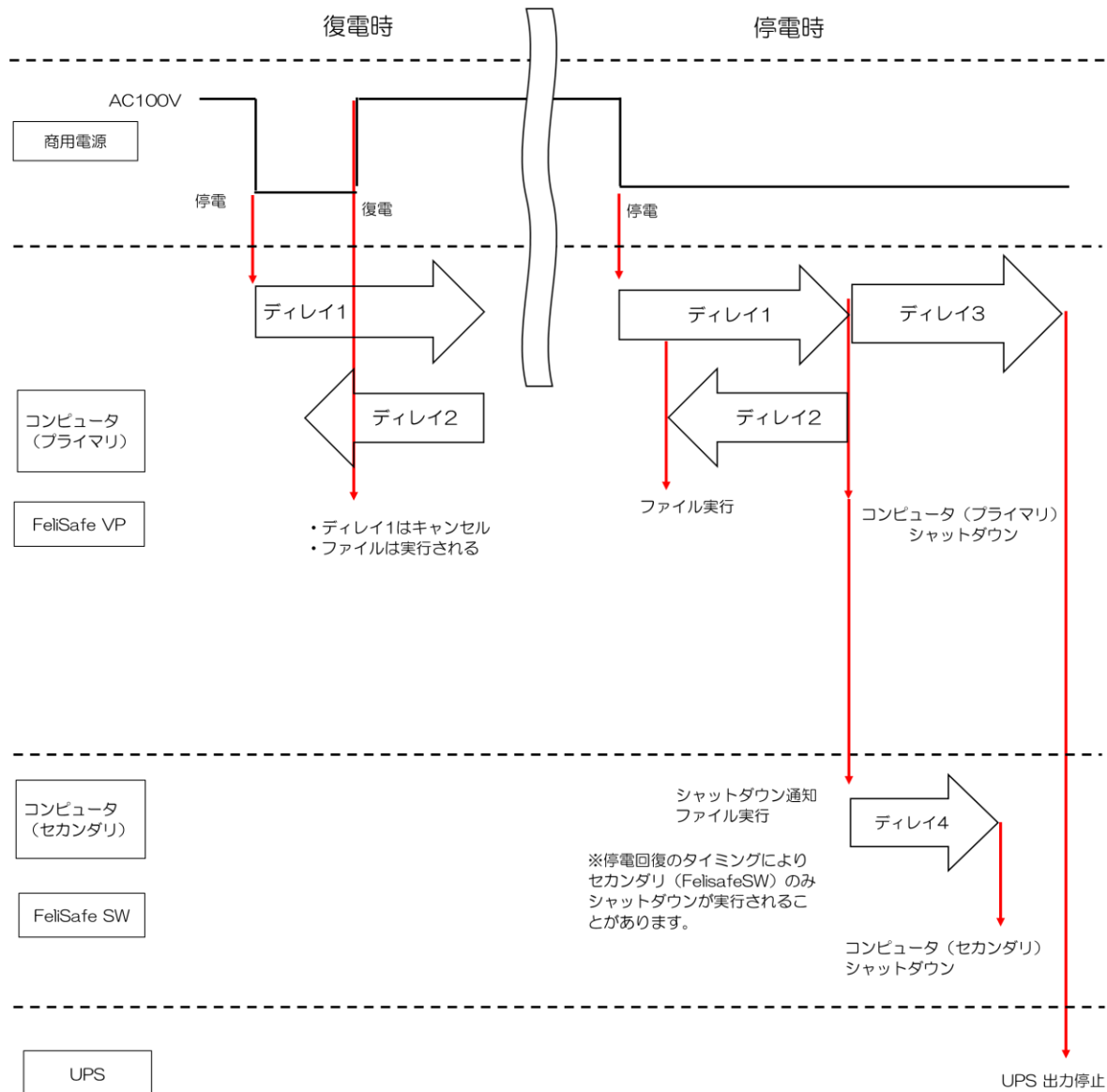


図 5.4.2.1. 停電時のシャットダウン動作のタイムチャート

停電時のシャットダウン動作のタイムチャートを、図 5.4.2.1 に示します。

■電源復旧待機時間（ディレイ 1）【初期値：60 秒】

停電が発生してから、電源の復旧を待機する時間です。

【動作】

ディレイ 1 の間に復電されない場合、プライマリはシャットダウン処理に移行します。

また、セカンダリへシャットダウン通知を送信するまでの待機時間です。

※待機中に UPS のバッテリー残量がなくなると、その時点で出力停止します。

【復電】

ディレイ 1 の間に復電した場合、FeliSafe VP は終了処理を中止し、通常運転に戻ります。

【設定】

0 秒から 99999 秒

※指定範囲内で設定するようにしてください。

■OS シャットダウン開始前のファイル実行時間（ディレイ 2）【初期値：60 秒】

プライマリがシャットダウンする前に、指定したファイルを実行するための時間です。

【動作】

ディレイ 2 は、停電時のタイムチャートに示す通り、ディレイ 1 の待機時間からさかのぼったディレイ 2 の時間でファイルを実行します。

ディレイ 2 は必ずディレイ 1 以下（ディレイ 2 ≤ ディレイ 1）に設定してください。

ディレイ 2 がディレイ 1 を超える値に設定された場合、正しく動作しません。

【動作例】(いずれも実行ファイルのパスが指定されている場合)

例 1 : ディレイ 1 = 60 秒、ディレイ 2 = 60 秒

ディレイ 1 終了の 60 秒前 (=ディレイ 1 開始直後) にファイルを実行します。

例 2 : ディレイ 1 = 60 秒、ディレイ 2 = 30 秒

ディレイ 1 終了の 30 秒前 (=ディレイ 1 開始から 30 秒後) にファイルを実行します。

例 3 : ディレイ 1 = 60 秒、ディレイ 2 = 0 秒

ディレイ 1 終了時に、ファイルを実行します。

※ファイル実行中であっても、ディレイ 1 が終了するとシャットダウン処理に移行します。

必要な処理時間を考慮してディレイを設定してください。

【復電】

ディレイ 2 開始後に復電しても、ファイルは実行されません。

【設定】

1 秒から 999 秒

ディレイ 2 の値はディレイ 1 以下で設定する必要があります。

ディレイ 2 がディレイ 1 を超える値に設定された場合、正しく動作しません。

※指定範囲内で設定するようにしてください。

■シャットダウン時の実行ファイル

シャットダウン前に実行したいファイルのパスを入力してください。

実行しない場合は空欄にしてください。

シャットダウン時の実行ファイル

※実行できるのは、非対話型の実行ファイル (.bat ファイルなど) です。

例として notepad.exe が記載されていますが、非対話型の実行ファイル (bat ファイルなど) を指定してください。

■OS シャットダウンの方法

終了時の動作を以下から選択できます。

【シャットダウン】

コンピュータをシャットダウンします。

【スリープモードに遷移する】

コンピュータをスリープ状態にします。

※スリープ中であってもディレイ 3 が経過すると UPS の出力が停止し、コンピュータへの電源供給が遮断されます。詳細は<<7.2. 「スリープモード」のご使用について>>を参照してください。

■停電シャットダウン開始後のUPS停止待機時間(ディレイ3)【初期値:2分】

プライマリのシャットダウン処理が開始されてから、UPS が出力を停止するまでの時間です。

【チェックボックス(UPS停止の有無)】

停電後にプライマリのシャットダウンを行い、UPS も停止させる場合はチェックを入れてください。

チェックを外した場合、UPS は出力停止せず、バッテリー残量がなくなるまで出力を継続します。

【動作】

・チェックありの場合

ディレイ 3 が経過すると、UPS は出力を停止します。

・チェックなしの場合

UPS は出力停止せず、動作を継続します。バッテリー残容量がなくなるまで出力を継続します。

【復電】

ディレイ 3 の間に復電した場合でも、UPS は設定時間後一旦出力を停止し、約 5 秒後に出力を再開します。

※停電後の電源復旧時の UPS 動作は、<<5.4.1.3. パラメータ設定>>の「停電回復時の自動起動」で設定することができます。(初期値:有効)

【設定】

1 分 ~ 99 分 (整数のみ有効)

※指定範囲内で設定するようにしてください。

■セカンダリの OS シャットダウン開始前のファイル実行時間（ディレイ 4）【初期値：10 秒】

セカンダリがシャットダウンする前に、ファイルを実行するための時間です。

【動作】

ディレイ 4 が経過すると、セカンダリはシャットダウン処理に移行します。

※ファイル実行中であっても、シャットダウン処理に移行します。

必要な処理時間を考慮してディレイを設定してください。

【復電】

ディレイ 4 の間に復電しても、セカンダリはシャットダウンされます。

【設定】

0 秒以上で設定できます。

上限は、ディレイ 3 で設定した時間より短くしてください。

UPS が出力停止する前にファイル実行が終了するように時間を設定してください。

■設定変更

設定変更後、「適用」ボタンをクリックしてください。変更内容が反映されます。

「初期設定」ボタンをクリックすると、設定が初期値に戻ります。初期値を設定する場合には、「適用」ボタンをクリックしてください。

■FeliSafe VP の設定例：ディレイ 1 からディレイ 3

- ①電源復旧待機時間（ディレイ 1）を 60 秒に設定します。
- ②OS シャットダウン開始前のファイル実行時間（ディレイ 2）を 30 秒に設定します。
ディレイ 2 の値は、必ずディレイ 1 以下に設定してください。（ディレイ 2 ≤ ディレイ 1）
- ③必要に応じて、「シャットダウン時の実行ファイル」の欄にファイルパスを入力します。
実行ファイルが無い場合は、空欄のままにしてください。
- ④OS シャットダウンの方法については、シャットダウンを選択します。
- ⑤停電後に UPS も停止させる場合は、チェックを入れます。
- ⑥停電シャットダウン開始後の UPS 停止待機時間（ディレイ 3）を 2 分に設定します。
- ⑦「適用」ボタンをクリックします。
- ⑧「正しく設定されました」とポップアップ表示されます。

シャットダウン >> シャットダウン設定

UPSがバッテリー給電動作のとき

- ① 電源復旧待機時間（ディレイ1）： 60 秒
- ② OSシャットダウン開始前のファイル実行時間（ディレイ2）： 30 秒
- ③ シャットダウン時の実行ファイル： C:\Work\FeliSafeVP\feli-date_note.bat

OSシャットダウンの方法

- ④ シャットダウン スリープモードに移行する
- ⑥ 停電シャットダウン開始後のUPS停止待機時間（ディレイ3）： 2 分

⑦ 適用 初期設定

シャットダウン >> シャットダウン設定

UPSがバッテリー給電動作のとき

- 電源復旧待機時間（ディレイ1）： 60 秒
- ⑧ 適用
- OSシャットダウン開始前のファイル
- シャットダウン時の実行ファイル C:\W

OSシャットダウンの方法

- シャットダウン スリープモードに移行する
- 停電シャットダウン開始後のUPS停止待機時間（ディレイ3）： 2 分

正しく設定されました

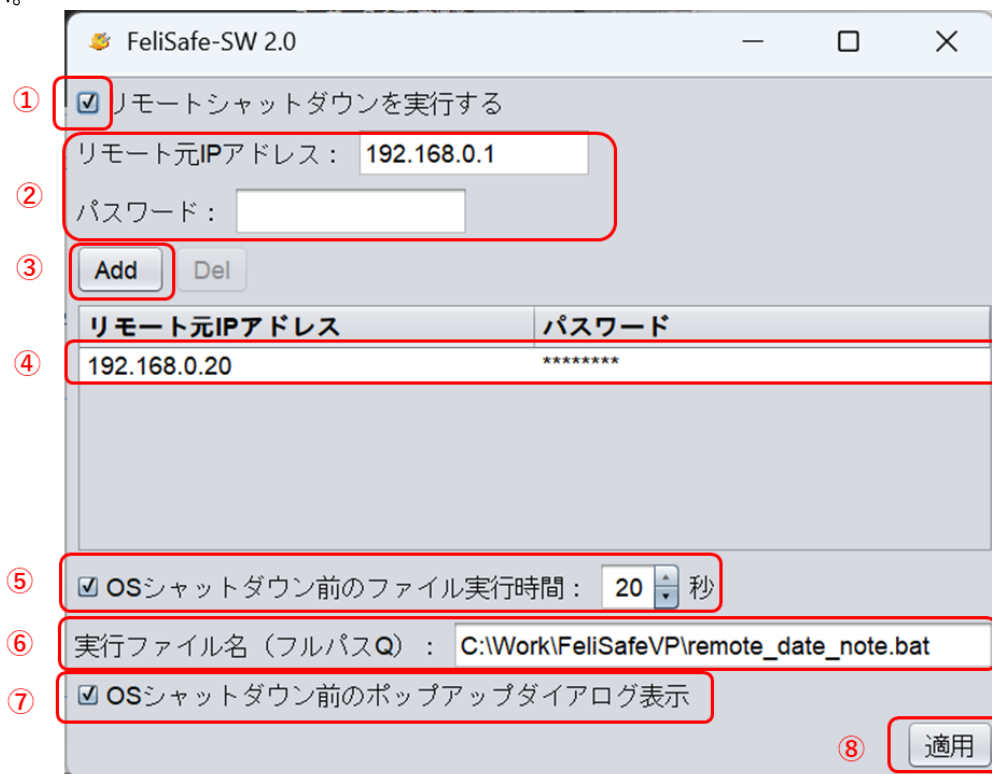
■FeliSafe SW について

リモートシャットダウンを使用する場合は、セカンダリに FeliSafe SW をインストールし、FeliSafe VP (プライマリ) からの通知を受け付ける設定が必要です。

プライマリ/セカンダリの概要は「2.3.FeliSafe VP のリモートシャットダウン機能」を参照してください。FeliSafe SW の詳細は、「FeliSafe SW ユーザーズマニュアル」を参照してください。

■FeliSafe SW の設定例：ディレイ 4

- ① 「リモートシャットダウンを実行する」にチェックを入れます。
- ② 「リモート元 IP アドレス」、「パスワード」を入力します。
リモート元 IP アドレス：FeliSafe VP がインストールされているコンピュータの IP アドレス
パスワード：FeliSafe VP の「リモートシャットダウン通知設定」で設定したパスワード
【補足】詳細は、「5.4.2.2. リモートシャットダウン通知設定」を参照してください。
- ③ 「Add」ボタンをクリックします。
- ④ リモート元 IP アドレスとパスワードが一覧に追加されます。
- ⑤ 「OS シャットダウン開始前のファイル実行時間」(ディレイ 4)にチェックを入れ、20 秒と設定します。
- ⑥ 必要に応じて、「シャットダウン時の実行ファイル」にファイルパスを入力します。
- ⑦ 「OS シャットダウン前のポップアップダイアログ表示」にチェックを入れます。
- ⑧ 「適用」ボタンをクリックします。
- ⑨ FeliSafe SW が閉じるので、FeliSafe SW をタスクトレイから再起動して設定されているか確認してください。



5.4.2.2. リモートシャットダウン通知設定

本設定では、FeliSafe VP（プライマリ）から、FeliSafe SW（セカンダリ）へリモートシャットダウン通知を送信するための設定を行います。

プライマリ/セカンダリの概要は「2.3. FeliSafe VP のリモートシャットダウン機能」を参照してください。

リモートシャットダウン通知設定は、以下の操作で表示できます。

- ・「UPS MENU」→「シャットダウン」→「リモートシャットダウン通知設定」

シャットダウン >> リモートシャットダウン通知設定

条件

リモートシャットダウンを通知する

リモートシステムIPアドレス: 192.168.0.1

パスワード:

リモートシステムIPアドレス	パスワード

追加 削除

適用 初期設定

■ リモートシャットダウンの設定

セカンダリをリモートシャットダウンするには、下記設定が必要です。

- ・セカンダリの IP アドレス、パスワードの設定
- ・「リモートシャットダウンを通知する」を設定

以下に設定手順を示します。

- ① リモートシャットダウンを行うセカンダリの IP アドレスを入力します。
- ② パスワードを入力します。セカンダリ側（FeliSafe SW）にも同じパスワードを設定してください。
- ③ 「追加」ボタンをクリックします。
- ④ 「正しく設定されました」とポップアップ表示されます。
- ⑤ 「リフレッシュ」ボタンをクリックします。
- ⑥ 再度、「リモートシャットダウン通知設定」画面を開き、入力した IP アドレスとパスワードが追加されていることを確認します。
- ⑦ 「リモートシャットダウンを通知する」にチェックを入れます。
※チェックを外すとセカンダリへリモートシャットダウン通知は送信されません。
- ⑧ 「適用」ボタンをクリックします。
- ⑨ 「正しく設定されました」とポップアップ表示されます。

FeliSafeVP

UPS MENU

ユーザータイプ: 管理者 ログアウト

監視されているUPS: USB (id=1F3B7)

シャットダウン >> リモートシャットダウン通知設定

条件

リモートシャットダウンを通知する

① リモートシステムIPアドレス: 192.168.0.20

② パスワード:

適用

リモートシステム

パスワード

正しく設定されました

③ 追加 削除

適用 初期設定

FeliSafeVP ユーザータイプ: 管理者 ログアウト

UPS MENU ▲ 監視されているUPS: USB (id=1F3B7

シャットダウン >> リモートシャットダウン通知設定 ▼

条件

リモートシャットダウンを通知する

リモートシステムIPアドレス:

パスワード:

リモートシステムIPアドレス	パスワード
⑥ 192.168.0.20	*****

FeliSafeVP ユーザータイプ: 管理者 ログアウト

UPS MENU ▲ 監視されているUPS: USB (id=1F3B7

シャットダウン >> リモートシャットダウン通知設定 ▼

条件

⑦ リモートシャットダウンを通知する

リモートシステムIPアドレス:

パスワード:

リモートシステムIPアドレス	パスワード
192.168.0.20	*****

⑧

⑨
適用 ×
正しく設定されました

■ IP アドレスを削除したいとき

- ①一覧の IP アドレスをクリックすると選択状態（グレー）になります。
- ②「削除」ボタンをクリックします。
- ③「削除」とポップアップ表示され、IP アドレスが消去されます。



■ 初期設定ボタン

「初期設定」ボタンをクリックすると、「リモートシャットダウンを通知する」のチェックボックスが外れます。

5.4.2.3. スケジュール ON/OFF 設定

UPS 出力をスケジュール設定し ON（出力する）/OFF（出力停止）することができます。

スケジュール ON/OFF 設定の用語や動作の詳細については、<<2.4.3 スケジュール ON/OFF 設定によるシャットダウン>>を参照してください。

スケジュール ON/OFF 設定は、以下の操作で表示できます。

- 「UPS MENU」 → 「シャットダウン」 → 「スケジュール ON/OFF 設定」

スケジュール ON/OFF 設定の画面。左側のメニューには「スケジュール」、「UPSオフ」、「UPSオン」、「運用系UPS」があります。右側の「個別」タブが選択されており、「停止日時」が 2026/04/07 09:21、「起動日時」が 2026/04/07 09:21 に設定されています。下部には「追加」と「削除」のボタンがあります。

■ 「個別」でのスケジュール ON/OFF 設定

- ① 「個別」を選択します。
- ② 停止日時を入力します。
- ③ 起動日時を入力します。
※起動日時は、停止日時より後に設定する必要があります。
- ④ 「追加」ボタンをクリックします。
- ⑤ 左の画面にスケジュール ON/OFF の予定が追加されます。

スケジュール ON/OFF 設定の画面。左側のメニューには「スケジュール」、「UPSオフ」、「UPSオン」、「運用系UPS」があります。右側の「個別」タブが選択されています (1)。「停止日時」が 2026/04/07 17:30 (2)、「起動日時」が 2026/04/08 08:00 (3) に設定されています。「追加」ボタン (4) がクリックされ、左側の画面にスケジュール ON/OFF の予定が追加されます (5)。

スケジュール	UPSオフ	UPSオン	運用系UPS
個別	2026/04/07 17:30	2026/04/08 08:00	USB1F3B7009

■ 「毎日」でのスケジュール ON/OFF 設定

- ① 「毎日」を選択します。
- ② 停止時間を入力します。
- ③ 起動時間を入力します。
- ④ 「追加」ボタンをクリックします。
- ⑤ 左の画面にスケジュール ON/OFF の予定が追加されます。



■ 「週単位」でのスケジュール ON/OFF 設定

- ① 「週単位」を選択します。
- ② 停止する曜日と時間を入力します。
- ③ 起動する曜日と時間を入力します。
- ④ 「追加」ボタンをクリックします。
- ⑤ 左の画面にスケジュール ON/OFF の予定が追加されます。



■設定したスケジュールの削除

- ①一覧から削除したいスケジュールをクリックすると、選択状態（グレー）になります。
- ②「削除」ボタンをクリックします。
- ③選択したスケジュールが削除されます。

シャットダウン >> スケジュールON/OFF設定

スケジュール	UPSオフ	UPSオン	運用系UPS
毎日	17:30	08:00	USB1F3B7009

個別

毎日

停止時間：
17:30

起動時間：
08:00

週単位

追加 削除

■動作

【停止（UPS 出力停止）】

停止動作は、次の流れになります。

- ①設定された「停止時間」から逆算して、「停電シャットダウン開始後の UPS 停止待機時間（ディレイ 3）」が開始されます。この時点でプライマリ（コンピュータ）がシャットダウン動作に入ります。
- ②設定された「停止時間」になると、UPS の出力が停止します。

【起動（UPS 出力開始）】

設定された「起動時間」になると、UPS が出力を開始します。
これに連動し UPS から電源供給されている装置が起動します。
装置が起動しない場合は装置側の設定が必要な場合があります。コンピュータに関しては <<8.2.UPS の出力開始でコンピュータを起動する方法>>をご参照ください。
その他の装置に関してはその装置のメーカーにご確認ください。

【注意】

スケジュール ON/OFF 設定によるシャットダウンでは リモートシャットダウンは実行されません。
そのため、セカンダリは自動シャットダウンしません。
セカンダリ側を停止する場合は、手動でシャットダウンしてください。

【例】

- ・ディレイ 3：2 分
 - ・停止時間：17:30 の場合
- ①17:28 に「停電シャットダウン開始後の UPS 停止待機時間（ディレイ 3）」が開始され、コンピュータ（プライマリ）がシャットダウン動作に入ります。
 - ②17:30 に UPS の出力が停止します。
- ※停電シャットダウン開始後の UPS 停止待機時間（ディレイ 3）については、<<5.4.2.1. シャットダウン設定>>を参照してください。

5.4.3. 制御

本節では、UPS のブザー音制御やバッテリーテストの実行、バッテリーテストのスケジュール設定を行う方法を説明します。

5.4.3.1. リモート制御

FeliSafe VP から UPS のブザー音 ON/OFF およびバッテリーテストを実施することができます。リモート制御は、以下の操作で表示できます。

- 「UPS MENU」 → 「制御」 → 「リモート制御」

▼ 制御 >> リモート制御

UPSブザー音ON/OFF

ON OFF

バッテリーセルフテスト

放電テスト (10秒) Start Cancel

放電テスト (分) 0.2 Start Cancel

完全放電テスト Start Cancel

■UPS ブザー音 ON/OFF

【ブザー音を OFF】

ブザーが鳴動しているとき、「OFF」ボタンをクリックすると、ブザー音を OFF にできます。ただし、ブザー音を OFF にできるのは Warning の一部（下記参照）となります。アラームについては、ブザー音を OFF できません。

※ブザー音を OFF できる Warning

- AC 入力異常時
- バッテリ切断状態
- バッテリ交換の警告

詳しくは、<<5.4.1.1. イベント設定>>を参照してください。

全てのブザー音を OFF したいときは、<<5.4.1.3. パラメータ設定>>の「UPS ブザー音（全状態（優先）」を無効にしてください。

【ブザー音を ON】

Warning 中にブザー音を「OFF」としていた場合、「ON」ボタンをクリックするとブザーが鳴動します。ただし、パラメータ設定でブザー音を OFF にしていた場合は、パラメータ設定の設定が優先されます。

■バッテリーセルフテスト

【放電テスト（10 秒）】

放電テストを 10 秒実施します。

【放電テスト（分）】

放電テストを 0.2～99 分の間で実施します。初期値は 0.2（分）（12 秒）です。

数値は、スピンドットで設定できます。

1 分未満で設定した場合の換算値は、以下のとおりです。

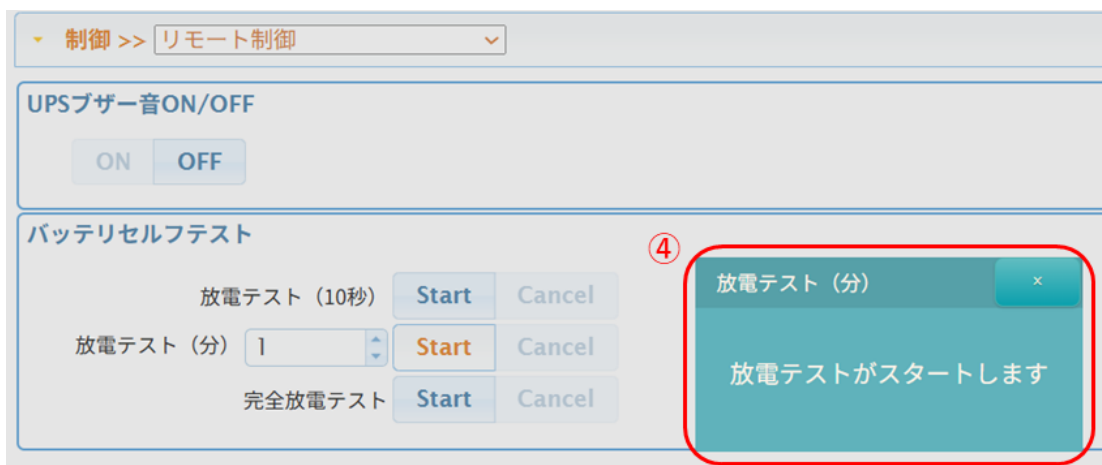
設定値 (分)	放電テスト時間 (秒)
0.2	12 秒
0.3	18 秒
0.4	24 秒
0.5	30 秒
0.6	36 秒
0.7	42 秒
0.8	48 秒
0.9	54 秒

【完全放電テスト】

放電をバッテリーがなくなるまで実施します。放電後は、再充電が必要となりますのでご注意ください。

【操作例 1】 バッテリテストを 1 分実行する場合

- ① 放電テスト（分）を「1」に設定します。
- ② 「Start」ボタンをクリックします。
- ③ 「操作してもよろしいですか？」と表示されるので、「確認する」をクリックします。
- ④ 「放電テストがスタートします」と表示され、バッテリーテストが開始されます。



【操作例 2】 バッテリテストをキャンセルする場合

- ① バッテリテスト中、「Cancel」ボタンをクリックします。
- ② 「操作してもよろしいですか？」と表示されるので、「確認する」をクリックします。
- ③ 「放電テストをキャンセルしました」と表示され、バッテリテストが停止します。



5.4.3.2. スケジュール・バッテリーテスト

スケジュールに従ってバッテリーテストを自動実行するための設定を行います。

「スケジュール・バッテリーテスト」は、以下の操作で表示できます。

- ・「UPS MENU」 → 「制御」 → 「スケジュール・バッテリーテスト」

スケジュール	日付	スタート時刻	方法	運用系UPS
個別	2026/04/07	10:10	放電テスト (10秒) 放電テスト (分) 0.2 完全放電テスト	

■ 「個別」でのスケジュール・バッテリーテスト

- ①周期：「個別」を選択します。
- ②日付：バッテリーテストを行いたい日時を入力します。
- ③スタート時刻：スタート時刻を入力します。
- ④方法：バッテリーテスト方法を選択します。「放電テスト（分）」の場合、値は0.2～99（分）となります。
- ⑤「追加」ボタンをクリックします。
- ⑥左の画面にバッテリーテストの予定が追加されます。
- ⑦指定日時の時刻になると、バッテリーテストが実施されます。

スケジュール	日付	スタート時刻	方法	運用系UPS
個別	2026/04/08	18:00	放電テスト (分)	USB1F3B7009

■ 「月単位」でのスケジュール・バッテリーテスト

- ① 周期：「月単位」を選択します。
- ② 日付：バッテリーテストを行いたい日（毎月行う日）を入力します。値は 1～31(日)となります。
- ③ スタート時刻：スタート時刻を入力します。
- ④ 方法：バッテリーテスト方法を選択します。「放電テスト（分）」の場合、値は 0.2～99（分）となります。
- ⑤ 「追加」ボタンをクリックします。
- ⑥ 左の画面にバッテリーテストの予定が追加されます。
- ⑦ 指定日時の時刻になると、バッテリーテストが実施されます。

制御 >> スケジュール・バッテリーテスト

スケジュール	日付	スタート時刻	方法	運用系UPS
月単位	8	18:00	放電テスト（分）	USB1F3B7009

⑥

スケジュール

① 個別 月単位

日付

② 8

スタート時刻

③ 18:00

方法

放電テスト（10秒）

④ 放電テスト（分） 0.2 分

完全放電テスト

⑤ 追加 削除

■ 設定したスケジュールの削除

- ① 一覧から削除したいスケジュールをクリックすると、選択状態（グレー）になります。
- ② 「削除」ボタンをクリックします。
- ③ 選択したスケジュールが削除され、一覧から消去されます。

制御 >> スケジュール・バッテリーテスト

スケジュール	日付	スタート時刻	方法	運用系UPS
個別	2026/04/08	18:00	放電テスト（分）	USB1F3B7009

①

スケジュール

個別 月単位

日付

2026/04/08

スタート時刻

18:00

方法

放電テスト（10秒）

放電テスト（分） 0.2 分

完全放電テスト

② 追加 削除

■ 動作

設定した日時になると、選択した方法（放電テスト／完全放電テスト）でバッテリーテストが実行されます。実行結果はイベントログに記録されます。

【注意】

イベントログに以下が表示された場合は、次のとおり対応してください。

- 「バッテリーセルフテスト不合格」と表示された場合
バッテリーを充電してください。
充電しても再度不合格になる場合は、バッテリーを交換してください。
- 「バッテリー交換」と表示された場合
バッテリーが劣化し寿命になりました。バッテリー交換が必要です。
※ 「バッテリー交換」の場合、LCD 画面に「bR」と表示されます。

5.4.4. ログ

5.4.4.1. ログ設定

ログの記録間隔、記録件数を設定できます。
ログ設定は、以下の操作で表示できます。

- 「UPS MENU」 → 「ログ」 → 「ログ設定」

ログ >> ログ設定		
計測ログの記録間隔	60	秒 範囲(30~999)
計測ログの記録件数	100000	範囲(0~999999)
イベントログの記録件数	100000	範囲(0~999999)

適用 初期設定

■ ログの記録間隔

ログの記録間隔を 30 秒～999 秒まで設定できます。(初期値：60 秒)

■ 計測ログの記録件数

計測ログの記録件数を 0～999999 件まで設定できます。(初期値：100000 件)

■ イベントログの記録件数

イベントログの記録件数を 0～999999 件まで設定できます。(初期値は、100000 件)

■ ログの設定の変更

- ① 設定値を変更します。
- ② 「適用」ボタンをクリックします。
- ③ 「設定されました」のポップアップが表示されます。

※計測ログ/イベントログの記録件数の上限を変更しても、FeliSafe VP と UPS が通信している限り、ログは上限を超えて記録され続けます。FeliSafe VP を再起動すると、表示されるログは新しいログから上限件数分までとなります。

※ログの記録件数を 0 にした場合、計測ログについては記録しませんが、イベントログについては記録されます。FeliSafe VP を再起動すると、最新の 1 件を除いてログは消去されます。

ログ >> ログ設定		
計測ログの記録間隔	120	秒 範囲(30~999)
計測ログの記録件数	10000	範囲(0~999999)
イベントログの記録件数	10000	範囲(0~999999)

適用 初期設定

適用

設定されました

■ 初期値に戻すとき

- ① 「初期設定」ボタンをクリックします。
- ② 「設定されました」のポップアップ表示がされます。

ログ >> ログ設定		
計測ログの記録間隔	60	秒 範囲(30~999)
計測ログの記録件数	100000	範囲(0~999999)
イベントログの記録件数	100000	範囲(0~999999)

適用 初期設定

初期設定

設定されました

5.4.4.2. ログ表示

イベントログおよび計測ログを確認できます。

ログ表示は、以下の操作で表示できます。

- ・「UPS MENU」→「ログ」→「ログ表示」
- ・ログのアイコンをクリック



ID	レベル	日付	イベント	分類
1	I	2025/12/11 09:10:32	通信が確立しました	UPS外部イベント

■ イベントログ

UPS で発生したイベントを記録します。

イベント一覧は、<<5.4.1.1. イベント設定>>を参照してください。

【イベントログの表示】

- ①「イベントログ」のタブを選択します。
- ②使用中の USB もしくは RS-232C のポートを選択します。
USB ポートまたは、COM ポートが変わると FeliSafe VP 上のポートの ID が変わりますのでプルダウンメニューから選択してください。
- ③ログの表示期間を選択します。
- ④「検索」ボタンをクリックします。
- ⑤イベントログが表示されます。(古いログから順に表示されます。)

ID	レベル	日付	イベント	分類
30	I	2025/12/09 09:40:07	通信が確立しました	UPS外部イベント
29	!	2025/12/09 09:45:52	通信不能	UPS外部イベント
28	I	2025/12/09 10:32:33	通信が確立しました	UPS外部イベント
27	!	2025/12/09 10:54:33	AC入力異常	入力イベント
26	I	2025/12/09 10:54:51	AC入力回復	入力イベント
25	!	2025/12/09 10:59:10	AC入力異常	入力イベント
24	I	2025/12/09 10:59:28	AC入力回復	入力イベント
23	!	2025/12/09 10:59:46	バッテリー低電圧	バッテリーイベント
22	!	2025/12/09 10:59:47	AC入力異常	入力イベント
21	!	2025/12/09 10:59:49	過負荷アラーム	ロードイベント

【イベントログの削除】

削除したいログの ID (行) を選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。

【イベントログの全削除】

「全て削除」ボタンをクリックしてください。

【イベントログのダウンロード】

「送出」ボタンをクリックすると、イベントログを Excel (.xls) 形式でダウンロードできます。

【イベントの検索】

検索の入力欄に文字を入力してください。

■計測ログ

UPS の電力フローに表示されている計測値を記録します。

【計測ログの表示】

- ① 「計測ログ」のタブを選択します。
- ② 使用中の USB もしくは RS-232C のポートを選択します。
USB ポートまたは、COM ポートが変わると FeliSafe VP 上のポートの ID が変わりますのでプルダウンメニューから選択してください。
- ③ ログの表示期間を選択します。
- ④ 「検索」ボタンをクリックします。
- ⑤ 計測ログが表示される。(新しいログから順に表示されます。)

ID	時刻	入力電圧	入力周波数	出力電圧	出力周波数	電流	負荷レベル	バッテリー電圧	UPS温度
1	2025/12/11 12:27:41	99.8	50.0	99.8	50.0	0.2	3	27.3	28.2
2	2025/12/11 12:26:42	100.0	50.0	100.0	50.0	0.2	3	27.3	28.2
3	2025/12/11 12:25:43	99.9	50.0	99.8	50.0	0.2	3	27.3	28.2
4	2025/12/11 12:24:44	100.1	50.0	100.0	50.0	0.2	3	27.3	28.2
5	2025/12/11 12:23:45	100.0	50.0	100.0	50.0	0.2	3	27.3	28.2
6	2025/12/11 12:22:46	100.0	50.0	100.0	50.0	0.2	3	27.3	28.2
7	2025/12/11 12:21:47	100.2	50.0	100.0	50.0	0.2	3	27.3	28.2
8	2025/12/11 12:20:48	99.9	50.0	99.7	50.0	0.2	3	27.3	28.2
9	2025/12/11 12:19:49	100.0	50.0	99.9	50.0	0.2	3	27.3	28.1
10	2025/12/11 12:18:50	99.9	50.0	99.9	50.0	0.2	3	27.3	28.2
11	2025/12/11 12:17:51	100.0	50.0	100.0	50.0	0.2	3	27.3	28.2

【計測ログの削除】

イベントログの ID (行) を選択し、「削除」ボタンをクリックします。

【計測ログの全削除】

「全て削除」ボタンをクリックします。

【計測ログのダウンロード】

「送出」ボタンをクリックすると、計測ログを Excel (.xls) 形式でダウンロードできます。

【計測の検索】

検索の入力欄に数字を入力してください。

5.4.5. ヘルプ

5.4.5.1. マニュアル

FeliSafe VP のユーザーズマニュアルをダウンロードできます。

5.4.5.2. ソフトウェアについて

FeliSafe VP のバージョンを確認することができます。

6. コンピュータのシャットダウン動作について

6.1. FeliSafe VP によるコンピュータのシャットダウン

FeliSafe VP の機能によるシャットダウンの動作は、通常コンピュータのシャットダウンとは異なり、動作中のプログラムの終了を待たずに強制的にシャットダウンを行います。
シャットダウンになる前に、速やかに動作中のプログラムを終了し、保存していないデータを保存してください。

6.2. FeliSafe VP 以外でのコンピュータのシャットダウン

FeliSafe VP 以外の方法でコンピュータをシャットダウンした場合、FeliSafe VP が動作しないため、UPS に対する制御指示は行われません。このため、UPS は出力を供給し続けます。
また、コンピュータはシャットダウンしている間は、スケジュール ON/OFF 設定などの制御は実施されません。

6.3. スケジュール設定時間以外の起動

スケジュール設定によって停止している時間に UPS 出力を開始したい場合は、UPS 前面の ON/MUTE ボタンを 2 秒以上押し、出力を開始してください。

7. ご利用いただく際の注意点ー必ずお読みください

7.1. UPS の電源供給に連動し、コンピュータを起動させるには

UPS が出力を開始しても、コンピュータが自動的に起動しない場合があります。その場合は、コンピュータ側の設定が必要です。

コンピュータについては <<8.2 UPS の出力開始でコンピュータを起動する方法>>を参照してください。

コンピュータ以外の装置については、装置のメーカーにご確認ください。

7.2. 「スリープモード」のご使用について

スリープは、作業中の状態を保持したまま省電力状態にする機能です。

スリープ中も状態を維持するために、わずかに電力が必要です。

スリープ中に停電が発生すると、UPS はバッテリー運転に切り替わります。

停電が長時間続いて UPS のバッテリーがなくなり出力を停止すると、コンピュータへの電源供給も停止します。この場合、スリープ中の作業状態を保持できず、スリープ前の状態に戻れないことがあります。

長時間の停電があり得る環境では、FeliSafe VP の「シャットダウン設定」にて「スリープモード」ではなく「シャットダウン」を選択することを推奨します。

(設定方法は<<5.4.2.1 シャットダウン設定>>を参照してください。)

7.3. 通信が始まらない場合

UPS と通信できない場合は、次の順で確認してください。

【USB 接続の場合】

①USB ケーブルを抜き差しする (USB 接続の場合)

USB ケーブルを抜き差しして、再度通信できるか確認してください。

【RS-232C 接続の場合】

②RS-232C ケーブルを抜き差しする

RS-232C ケーブルを抜き差しして、再度通信できるか確認してください。

【共通】

③UPS 監視プログラム (サービスプログラム) を再起動する

<<4. サービスプログラムの起動/停止/再起動方法>>を参照し、サービスプログラムを再起動してください。

④上記を行っても通信できない場合

コンピュータを再起動してください。

8. 付録

8.1. FeliSafe VP を「管理者として実行」する方法

FeliSafe VP を管理者権限で実行すると、サービスプログラムが停止している場合でも、サービスプログラムを起動することができます。

■FeliSafe VP を一時的に「管理者として実行」する方法

Windows のスタートメニューで、一覧から「FeliSafe VP」を右クリックすると、下記のようなメニューが表示されます。

表示されたメニューから「管理者として実行」をクリックします。

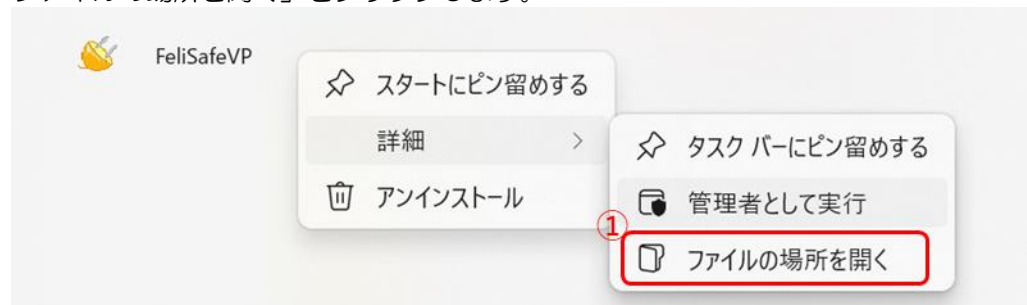
管理者として実行する場合、通常こちらをご使用ください。



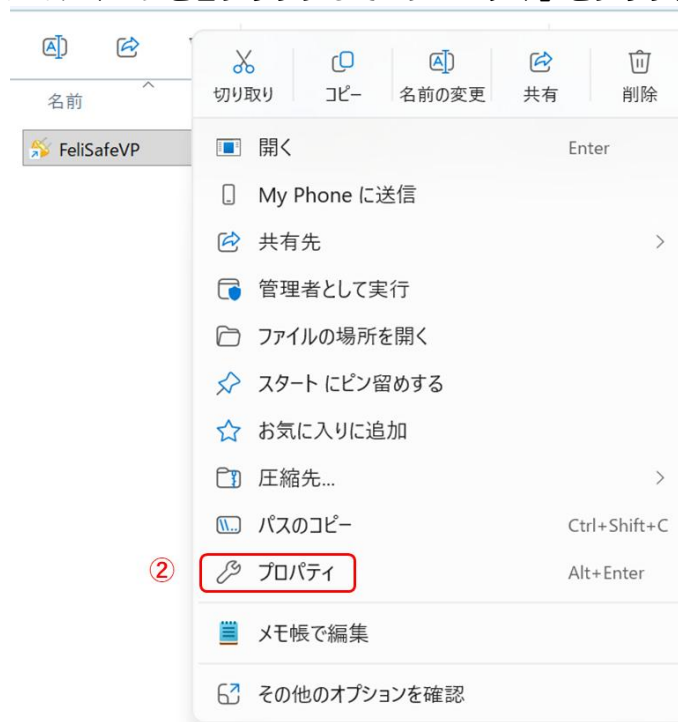
■FeliSafe VP を常に「管理者として実行」する方法

上項と同様に「FeliSafe VP」を右クリックし、メニューを開きます。

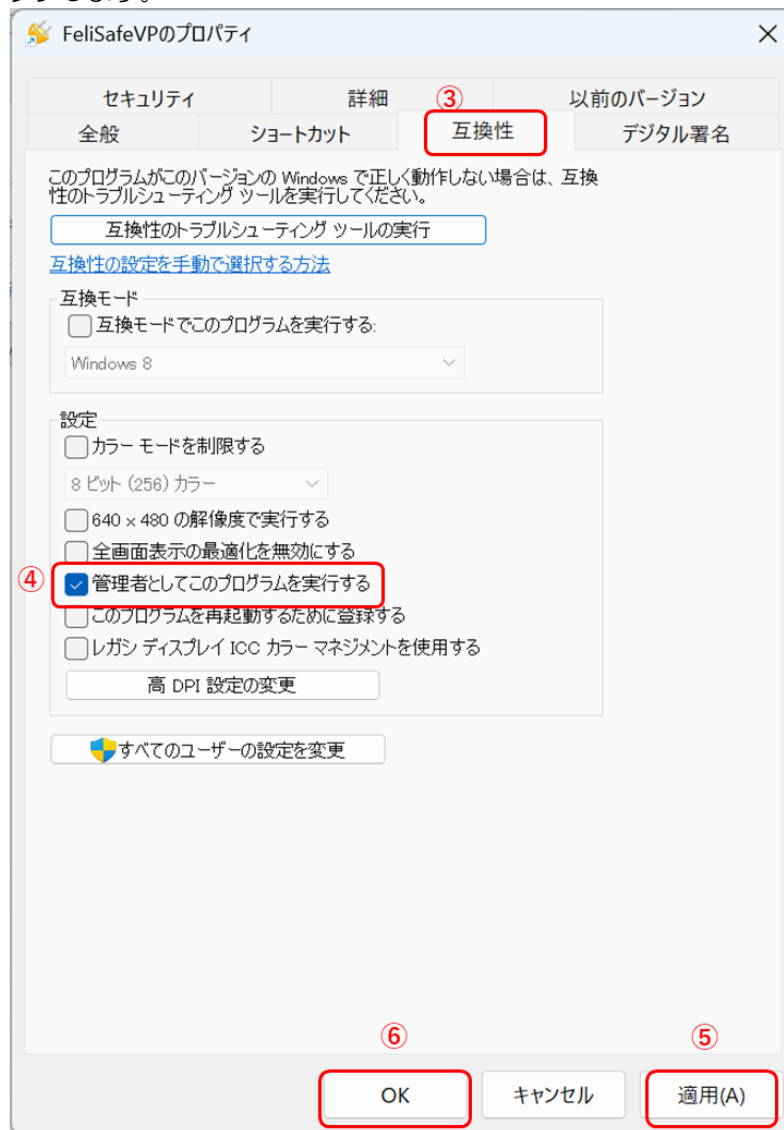
①メニューの「ファイルの場所を開く」をクリックします。



②「ファイルの場所を開く」をクリックすると FeliSafe VP のショートカットアイコンがあるフォルダに移動します。FeliSafe VP のアイコンを右クリックして「プロパティ」をクリックします。



- ③ 「プロパティ」を表示し、「互換性」のタブを開くと下記画面が表示されます。
- ④ 「管理者としてこのプログラムを実行する」にチェックを入れます。
- ⑤ 「適用」ボタンをクリックします。
- ⑥ 「OK」ボタンをクリックします。



以降、スタートメニューから「FeliSafe VP」を通常起動しても「管理者として実行」されます。ただし、常に「管理者」として起動するため、起動時に Windows の「ユーザーアカウント制御」が表示されます。通常は、上記の「一時的に管理者として実行」する方法をご利用ください。



8.2. UPS の出力開始でコンピュータを起動する方法

UPS が停電復旧、スケジュール、操作などにより AC 出力を開始した際、これに連動して UPS から電源供給されている装置が起動します。

ただし、コンピュータによっては BIOS (UEFI) の起動条件 (Boot 条件) の変更が必要な場合があります。以下に設定例を示します。

なお、BIOS (UEFI) への入り方や設定項目は、メーカー/機種/マザーボードにより異なります。詳細はコンピュータまたはマザーボードのマニュアルを参照するか、メーカーへお問い合わせください。弊社ではお問い合わせにお答えいたしかねます。

■BIOS (UEFI) の設定例

コンピュータが UPS の出力開始に連動して起動しない場合、BIOS (UEFI) の電源復帰時の動作設定が必要なことがあります。

以下に設定例を示します。

■BIOS (UEFI) を起動する

PC の起動中に特定のキーを押して BIOS (UEFI) を起動します。

押すキーは PC メーカーや機種により異なります。

(例: Delete / F2 / F10 / F12 / Esc など)

正しく認識されると、BIOS (UEFI) メニューが表示されます。

■設定項目 (例)

BIOS (UEFI) 内で、停電復旧 (電源復帰) 時に「自動的に電源を入れる (Power On)」設定を探し、設定します。

項目名やメニュー名はメーカーにより異なります。

BIOS 例

- 「Boot Options」メニュー
「After Power Loss」: Power On

■設定の保存と再起動

設定を変更したら保存して PC を再起動します。

BIOS (UEFI) メニューの「Save Changes and Exit」等を選択してください。

設定が保存され、PC が再起動します。

※装置によっては、UPS が出力を開始しても起動しない場合があります。

その場合は装置メーカーにご確認ください。

